

578  
19

無線技士通信學校講義錄  
第壹講



始





無線技士通信學校  
講義錄

第 壹 講

發 行 所

東京市芝區櫻田區龜町五番地

無線技士通信學校

電話銀座二九三六番



508-19

元無線電信通信  
事者資格檢定委員

藤田 蔦治 講述

版權所有



# 無線電信法規講義

東京市芝區榎田  
備前町五番地

無線技士通信學校

大正  
12. 3. 1  
内交

## 無線技士通信學校講習生學則(抄録)

(詳細學則二錢切手封入申込むべし)

- 第一條 本校は通信教授の方法に依り無線電信の學理及技術並關係法規を教授し且つ通信省私設無線電信通信従事者資格檢定試験に必要な科目を授くるを以て目的とす
- 第二條 本校は一ヶ月二回講義録を配付し六ヶ月を以て完了す
- 第三條 科目は基礎無線電信學、發電機及變壓器、無線電信に關する内外法規、英語、科外講義の五科目とす
- 第四條 志願者は何人たるを不問隨時入學する事を得
- 第五條 入學せんとするものは左記書式に依り入學願書に略歴を記載し規定の月謝及入學金を添えて提出すべし但假替貯金を以て基金する者は通信文記載欄を利用するも差支なし(書式省略)
- (入學願書記載要綱)原籍、現住者、職業、職稱、姓名、年齢、學歷、職業歴、賞罰等
- 第八條 本校の規則に違反し月謝不納及不正の行爲ありたる時は退學せしむ
- 第十二條 月謝は一ヶ月金二圓とす、入學志願者は申込の際入學金として金二圓を納入すべし
- 第十四條 入學願書、月謝及入學金を納入したるものには直に講義録及講習生證を送附し以て受領證に代ふ
- 第十五條 講義録は何時入學するも第一號より順次送附するものとす
- 第十七條 中途退學者にして既納の月謝に剩餘ありたる時は之に對する講義録を送附し返金せざるものとす
- 第十八條 講義録中疑問及難解の點ある場合は講義録添付の質問券により質疑する事を得質疑せんとするものは講義録の號數、科目及頁數を詳記し必ず三錢切手の封入を要す
- 第二十一條 本講義録修了者にして卒業試験を受けんとするものは下記規定の受験料を納附すべし 筆記試験 金貳圓 實地試験 金參圓
- 第二十二條 卒業試験は分ちて筆記試験及機器に關する實地試験の二種とす、筆記試験は當方より送附する試験問題に對し答案を認め返送すべし、答案は之を採點し五十點以上平均點八十點を以て及第點として卒業證書を授與す、機器の實地試験は當分之を課せず。

東京市芝區榎田備前町五番地

入學申込所 無線技士通信學校

電話銀座二九三六番





# 無線技士通信學校講義錄

## 無線電信法規講義目次

### 第一編 無線電信法

#### 總論

第一章 無線電信事業の起原と發達	(一)
○第一節 無線電信事業ノ沿革	(一)
○第二節 無線電信發達ノ世界的大勢	(三)
第二章 無線電信法制定ノ由來	(四)
第三章 無線電信事業ノ法律上ノ性質	(六)
○第四章 無線電信ニ關スル國家專掌主義ノ意義	(八)
○第五章 無線電信ノ管理	(九)
本論	
○第一章 無線電信及無線電信ニ關スル政府ノ特權	(三)



第一章 無線電信及無線電話ニ關スル專掌權及其ノ例外……………(一三)

第二章 無線電信及無線電話ニ關スル主務官廳ノ權限……………(一五)

第三章 私設無線電信ノ施設及運用等ニ關スル制限……………(二〇)

第四章 無線電信從事者ノ法規上ノ責務……………(二五)

第五章 無線電信ニ關スル料金……………(二六)

第六章 無線電信ニ關スル犯罪及刑罰……………(三三)

一、不法施設ノ罪 二、目的外使用ノ罪 三、使用制限侵犯ノ罪 四、公用徵收拒絕ノ罪

五、通信秘密侵害ノ罪 六、料金減脫ノ罪 七、虛偽通信ノ罪 八、電報ノ開披隱匿等ノ罪

九、取扱拒絕及遲延ノ罪 一〇、通信障礙ノ罪 一一、未遂罪 一二、吏員ノ職務執行妨害等ノ罪

第六章 本法適用ノ範圍……………(四五)

第二編 無線電報規則

第一章 無線電報及無線電信官署ノ意義……………(四九)

第二章 無線電報ノ發送……………(五〇)

第一節 海岸局指定……………(五一)

第二節 船舶中繼……………(五一)

第三節 無線電報ノ船舶局受付……………(五一)

第三章 無線電報ノ料金……………(五二)

第一節 料金……………(五二)

第二節 料金還付……………(五四)

第四章 無線電報ノ特別取扱……………(五五)

第一節 保管及保管期間……………(五五)

第二節 日支電報ノ特別取扱……………(五六)

第三節 無線電報取扱上ノ制限事項……………(五七)

第五章 無線電報ノ傳送……………(五八)

第一節 無線通信ノ種別……………(五八)

第二節 呼出ノ方則……………(五八)

第三節 無線通信ノ順位……………(五八)

第四節 無線電報ノ混信防止……………(五八)



第五節 傳送ノ手續ト取扱方……………

第六節 海岸局ノ轉送……………

第六章 海岸局相互間無線電信連絡……………

附錄 船舶局執務上ノ注意事項……………

附圖 無線電信陸上配置圖一種、無線施設例圖解八種 (三、十三、十四、十五頁)

# 無線電信法規講義

## 第一編 無線電信法

元無線電信通信從事者資格檢定委員

藤田 葛 治 講述



### 第一章 無線電信事業ノ起原ト其發達

#### 第一節 無線電信事業ノ沿革

無線電信ノ起原ハ明治二十年獨逸「カールスルーエ」大學教授「ヘルツ」氏ガ所謂「ヘルツ」電波ヲ見ニ隨ヒテ雖モ之ヲ實用通信ニ應用スルニ至リシハ同二十八年伊太利ノ一青年「ヂー、マルコニ」氏(當時ニ)發明改良ニ始マル。氏ハ翌二十九年英國ニ渡リ實用的無線電信方式最初ノ特許ヲ得、又同國郵政廳ノ技師長「コウキリアム、ブリース」氏等ノ熱心ナル援助ノ下ニ漸次其研究ヲ進メ翌三十年ニハ無線電信信託會社ノ創立トナリ三十二年ニハ遂ニ英佛海峽三十五海里ノ實用通信ニ成功セリ。爾來氏ハ益々其ノ研究ト試驗區域トヲ擴張シ遂ニ今日ノ如ク其ノ利用ヲシテ克ク世界的ナラシムルニ至レリ。

先是本邦ニ於テハ明治十九年早クモ故遞信技師志田林三郎氏ハ自己ノ考案ニナレル無線電信(誘電



法)ヲ隅田川及品川灣ニ試驗セシモ成功セズ。同三十年末(マルコニイノ發明公)ニ至リテ初メテコトアル品川灣内台場ト月島間ノ試驗通信ニ成功シ爾來幾多ノ經驗ト研究ヲ重ネタル結果、遂ニ遞信省式ナル一方式ヲ樹立シ、同三十六年中ニ於テハ長崎臺灣間海上六百三十海里ヲ隔ツル長距離通信ニ成功シテ以來遞信省式ノ優秀ニシテ世界ノ諸方式ニ拮抗スルニ足ルコトヲ確認セシムルニ至レリ。而シテ其ノ無線電信(海軍ノ無線電信ハ最初松代松之助氏)ヲ利用シテ世界的ニ其威力ヲ認メシメタルハ、實ニ明治三十七八年ノ役、彼ノ波羅的艦隊ガ對馬水道通過ニ際シ時ノ東郷艦隊ノ一哨艦信濃丸ガ「敵艦見ユ」ノ通信ニ成功(海軍)シ、東郷提督ヲシテ克ク麾下ノ艦隊ヲ指揮シテ戰鬪準備上機宜ノ措置ヲ誤ラシメザリシコトニシテ是レ蓋シ世界ノ海戰史上無線電信ヲ實戰ニ應用シタル嚆矢ナリトス。

明治三十九年本邦政府ハ、伯林ニ開催セラレタル第一回國際無線電信會議ニ贊同加盟シ其ノ結果同四十一年中銚子外三箇所ニ海岸無線電信局ヲ設置シ次テ天洋丸外六隻ニ船舶無線電信局ヲ開設ス。之レ實ニ本邦ニ於ケル無線電信ノ一般通信ニ公開セラレタル權與ナリトス。

後大正四年十二月、無線電信法ノ制定實施ト共ニ新ニ無線電信ノ私設ヲ認ムルニ至ルヤ、時偶々戰時海運界活躍ノ好機ニ際會シ、人命財貨ノ保安上急劇ニ無線電信施設ノ普及發達ヲ促進シ爾來逐年増進ノ趨勢ヲ持續シツ、アリ。

參考

▲陸上無線電信局所 (大正十一年十月現在)

- 銚子無線電信局 千葉縣海上郡津師子町
- 落石無線電信局 根室國根室郡和田村
- 大瀨崎無線電信局 長崎縣松浦郡福江島
- 潮岬無線電信局 和歌山縣西牟婁郡潮岬

◎角島無線電信局

- 下津井無線電信局 山口縣豐浦郡角島
- 船橋無線電信局 岡山縣兒島郡下津井町
- ×磐城無線局原ノ町送信所 千葉縣東葛飾郡塚田村
- ×磐城無線局富岡受信所 福島縣相馬郡原ノ町
- 幌筵無線電信局(夏季ニ限リ取扱フ) 同 縣雙葉郡富岡町
- 舞鶴無線電信取扱所 千島國幌筵島
- ラサ島無線電信取扱所 京都府加佐郡餘部町
- 南大東島無線電信取扱所 沖繩縣沖大東島
- 同 縣南大東島
- 大連灣無線電信局 關東州大連灣會柳樹屯
- 基隆無線電信局 臺灣臺北州富貴角
- 金澤無線電信局 石川縣石川郡金石町
- 石狩無線電信局 北海道石狩國輕川町

▲船舶無線電信局所數 (大正十一年九月現在)

- 船舶無線電信局 三〇
- 船舶無線電信取扱所 四六三

第二節 無線電信發達ノ世界的趨勢

「マルコニイ」氏ガ英佛海峡ノ無線通信ニ成功シタル翌年(明治三十三年十月)英國ハ大西洋橫斷通信ノ目的ヲ以



テ「ボルジュー」ニ大規模無線電信局ヲ建設シ北米合衆國及加奈陀ニ建設シタル對手無線電信局間ニ試驗通信ヲ行ヒシモ成功セズ。其ノ後英國ハ愛蘭「クリブデン」ニ強力無線電信局ヲ建設シ、加奈陀「グレースベール」局間ノ實用通信ニ成功スルニ至リシハ明治四十年ニシテ、其ノ距離二千二百海里ナリトス。之レ蓋シ大洋橫斷無線通信公開ノ濫觴ナリトス。

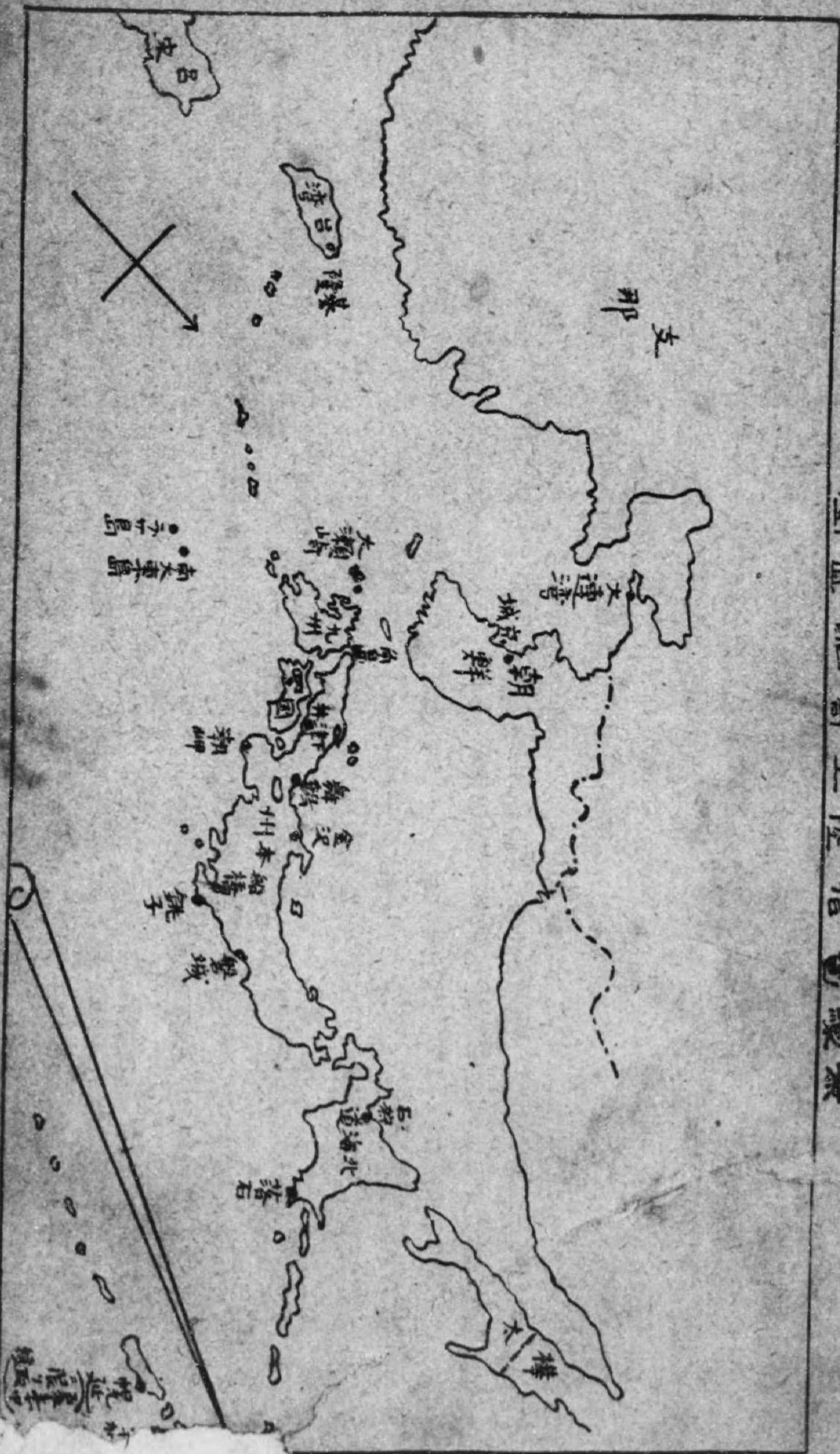
大正三年北米合衆國ハ「マルコニー」會社ヲシテ桑港、布哇間ノ太平洋橫斷通信ヲ開始セシメ同五年十一月、我が船橋無線電信局ノ建設サル、ニ及ンデ該布哇局ト對米通信ヲ公開ス。之レ本邦ニ於ケル對外無線通信ノ權輿ニシテ大正十年七月磐城大無線電信局竣成(受信ハ大正九年五月ヨリ開始ス)ニ依リテ更ニ我が對米通信上一新紀元ヲ劃スルニ至レリ。

先是英國政府ノ如キハ大正二年既ニ「マルコニー」會社ト協定シ、世界ニ散在セル自國各領土トノ間ニ無線電信ニ依ル連絡大計畫ヲ公表セル外、獨佛伊等ノ諸國モ亦爭フテ之ニ類似ノ計畫ヲ策セリ。而シテ是等ノ列強ハ各獨特ノ設計ト方式トニ依リ競フテ大無線電信ノ建設ト長距離通信ノ成功ニ腐心スル等、一般商業通信ノ外軍備、國防上ノ見地ニ依リ強力無線電信ノ建設又ハ連絡計畫相踵デ起ルノ趨勢ヲ呈スルニ至レリ。之レ現時世界ニ於ケル無線電信事業界ノ大勢ナリトス。

## 第二章 無線電信法制定ノ由來

無線電信ノ事業ハ有線電信ニ比シ比較的最近ノ發達ニ屬スルヲ以テ、明治三十三年三月制定ノ電信法中ニハ之ニ關シ何等規定スル所ナカリシモ歐米ニ於ケル無線電信事業ノ漸次發達スルニ伴ヒ、本邦ニ於テモ遞信省ハ勿論、軍事上ノ必要上、陸海軍其他ニ於テモ亦著々無線電信ニ關シ獨立ノ研究ヲナスニ至レルヲ以テ明治三十三年十月、遞信省令第七七號ニ依リ無線電信ヲ以テ、電信法第四十四條ニ

國國電海上陸電信線圖



無線電信法講義附圖



依ル電信又ハ電話ニ非ラザルモ一種ノ通報信號施設ト看做シ、同法中私設ニ關スル規定以外一切ノ規定ヲ準用スル旨公布セリ。

▲遞信省令第七七號 (明治三十三年十月十日)

電信法第二條第三條第二十八條及第四十三條ヲ除クノ外之ヲ無線電信ニ準用ス

無線電信ヲ以テ通報信號ト看做シ、法中之ニ關スル規定ヲ準用スルガ如キハ素トヨリ一時ノ便法ニ外ナラズ。輒近海外ニ於ケル無線電信事業ハ急激ナル發達ヲ遂ゲ、各國爭フテ大規模ナル研究及計畫ヲ發表シ、陸上電信ト相俟ツテ海上船舶ノ通信連絡ニ資シ海運事業ニ著大ノ貢獻ヲナス外人命財貨ノ保全上等ノ機器ハ海上必須ノ要具トシテ重視セラレ、ニ至レリ。茲ニ於テ乎、大正三年一月(十九百)英國倫敦ニ於ケル海上生命保全ニ關スル列國會議(本邦ハ單ニ委員ヲ參列セシメタルノミ)トナリ一定ノ船舶ニ對シ無線電信裝置ノ強制ヲ議決スルニ至レリ。

▲海上生命保全ニ關スル條約 (マーチヤント、シツピング、アクト)

(第三十一條(要領)) 條約國ニ隸屬スル船舶ハ其ノ推進方法ガ機械的タルト帆船的タルトヲ問ハズ且ツ旅客ヲ運送スルト否トニ拘ラズ一條約國ノ一港ヨリ他國ニ向ヒ又ハ之ト反對ニ向フ船舶ニシテ五十人又ハ五十人以上ヲ運送スルモノナルトキハ無線電信設備ヲ裝置スベシ云々

北米合衆國ハ之ニ先チ前記商船法ノ主旨ニ基ク船舶無線電信裝置強制法ヲ實施(四年)シ英國モ亦同年同月同様ノ船舶無線電信強制法ヲ立法シタルモ歐洲戰亂ノ關係等ニ依リ之カ實施期ヲ留保シテ今日ニ至リシガ、大正八年(十九百)ニ至リ該商船法ニ追加スベキ船舶無線電信法ヲ制定シ(適用範圍ハ(英本國トス)客船ハ十二人以上其他ハ一千六百噸以上ノ商船トシ大正九年九月一日ヨリ之ヲ實施セリ又南米亞爾然丁モ大正八年ヨリ略北米合衆國ニ類似ノ船舶無線電信強制法ヲ施行セル外印度政廳モ大正十年四月英國ノ無線電信法ト同様ノ船舶無線電信強制法ヲ實施セルアリ。

於茲乎。本邦ニ於テモ是等世界ノ大勢ニ順應シ、船舶無線電信ノ普及上私設無線電信制度制定ノ必



要ニ迫ラレ又一方ニ於テハ戰時事變ノ際ニ處スル無線電信運用取締及特別制限規定ヲ設クルノ必要等各種ノ情勢ニ鑑ミ大正四年六月、遂ニ無線電信法ノ公布トナリ、同年十一月一日ヨリ之ヲ施行セリ。朝鮮臺灣、樺太等ノ各殖民地ハ同時ニ勅令ヲ以テ本法ヲ施行シ、關東廳ハ無線電信業務ニ關シテ同法規定ヲ準用スル旨、勅令ヲ以テ公布セラル。

### 第三章 無線電信事業ノ法律上ノ性質

無線電信ノ事業ハ本來ノ性質上必ズシモ命令權ノ作用ニ依ルヲ要セズ。故ニ之等ノ事業ハ是ヲ國家事業ト爲サルモ必ズシモ經營スル能ハザルモノニアラズ、從テ之ヲ私人ノ經營ニ委スルモ敢テ妨ケサルモノ也。素ヨリ之等通信ノ便ヲ計ルコトハ國家ノ目的ノ一タルハ疑ヲ容レズト雖モ國家自ラ之ヲ經營スルト或ハ之ヲ私人ノ事業ニ任セテ國家ハ唯之ヲ特ニ保護スルニ止ムルトハ國家ハ何レモ其ノ目的ヲ達スルノ方法ニシテ、其ノ何レニ依ルヤハ寧ロ利害ノ問題ニ歸着スルナリ。

我國ニ於テハ無線電信ノ事業ハ行政、軍事及財政上等ノ見地ニ依リ之ヲ國家事業トナスト雖モ之ガ爲事業本來ノ性質ヲ敢テ變更スルコトナキナリ。

右ノ如ク國家ガ無線電信ノ事業ヲ經營スルトスルモ命令權ノ作用ニ依ルコトヲ要セズ又依ルベキモノニアラズトセバ、無線電信ノ事業ハ法律上果シテ如何ナル性質ヲ有スルカト云フニ之ニ就テハ學說ニアリ。營造物主義及官業主義之レナリ。

一、營造物トハ國家ノ命令權ノ作用ニ依ラズ直接ニ公共ノ利益ニ供セラル、處ノ手段也。營造物ハ公共ノ用ニ供スルモノナリ。故ニ假令國家ノ目的ニ供スルモ收入ヲ目的トスル葉烟草專賣事業ノ如キハ營造物ト稱スルヲ得ス、又公有物、公有財産ハ營造物ヲ組織スルコトアルモ必ズシモ公共ノ用ニ供

スルモノニアラザレバ是又營造物ト稱スルヲ得ザルナリ。勿論營造物モ國家ノ收入ノ一手段トナルコトアルモコハ營造物ノ主タル目的ニアラズ。營造物ハ直接ニ公共ノ利益ヲ目的トスルモノナリ。故ニ國家百般ノ設備ハ殆ンド之ヲ公共ノ利益ノ爲ナリト云フヲ得ルモ而モ直接ニ公共ノ利益ニ供セラザレバ之ヲ以テ營造物ト稱スルヲ得サルモノトス。例セバ官署ノ建物ノ如キハ公共ノ用ニ供スルモノ之ヲ營造物ト稱スルヲ得サル所以ナリ。

(註) 營造物(例道路鐵道公園學校(私立ヲ)病院(同等)トハ(物及人又ハ物ヲ以テ之ヲ組織シ官廳又ハ公共團體ノ意志表示ニ依リ法令ニ規定スル處ニ從ヒ)命令權ノ作用ニ依ラズシテ行政上ノ目的ヲ達スル處ノ設備ニシテ直接ニ公共ノ用ニ供セラル、モノナリ營造物ハ命令權ヲ統治者ノ委任ヲ受ケテ行フモノニアラズ、此點ニ於テ命令權ヲ行フ處ノ官廳ト區別セラル、モノトス或ハ營造物ノ使用ニ伴ヒテ強制的ノ作用生スルコトアリト雖之ハ營造物ノ屬スル公共團體若ハ官廳ノ行フ處ノ命令權ノ作用ニシテ營造物自體ハ命令權ヲ行フコトナシ例セバ學齡兒童ヲ強制的ニ小學校ニ入學セシムルモ小學校ガ命令權ヲ有セザルガ如シ電信電話ハ命令權ノ作用ニ依ルベキモノニアラザルモ之等營造物ノ主體タル國家ガ營造物ノ管理ヲ完全ナラシムルタメ或ル特權ヲ有スルニ過キベシテ從テ營造物ノ自體ニ附屬スル特權又ハ權限ニアラズ

### 二、官業トハ國家ガ私人ト等シク或ル事業ヲ經營スルコトヲ云フ。官業ヲ分チテ一般官業及專業トス。

一般官業トハ國家ガ自ラ或ル事業ヲ經營スルモ之ト同時ニ私人モ亦同種ノ事業ヲ營ムコトヲ禁ゼザルモノ、例セバ鐵道事業ノ如キ之レナリ。

專業トハ或ル事業ヲ一人ガ營ムコトヲ禁止シ國家獨リ之ヲ營ム葉烟草專賣ノ如キハ此ノ例ナリ。而シテ無線電信ノ事業ハ營造物ナリヤ將タ官業ナリヤハ、主トシテ國家ガ是等ノ事業ヲ經營スルノ目的ニ依リテ決セザルベカラズ。之ニ關シテハ議論ノ存スル處ナルモ若シ之ヲ營造物トセバ、無線電信ノ使用ニ依リテ生スル處ノ私人對營造物ノ關係ハ特別ノ權利關係トナリ、公法上ノ原則適用セラルベ



シ。之ニ反シテ官業ナリトセバ之ニ依リテ生ズル關係ハ私法上ノ關係トナリ、從テ規定ノ内容ハ多ク之ヲ特別ノ私法又ハ契約トナリ、臣民ニ對スル命令ニアラズ、當該官廳ニ對シテハ、契約ノ條件ヲ豫告スル告示ノ性質ヲ有スルモノト云フヲ得ベシ。

### 第四章 無線電信ニ關スル國家專掌主義ノ意義

無線電信ノ事業ハ、命令權ノ作用ニ依ルコトヲ要セザルヲ以テ、法律上ヨリ論ゼバ必シモ國家自ラ之ヲ經營スルヲ必要トセズ、私人ノ事業ニ委スルモ毫モ妨ケナキコトハ、前章既ニ說明セル處ナリ然レドモ是等ノ事業ハ他ノ一方ヨリ觀レバ、國家ノ政策上種々ナル理由ヨリシテ國家ノ專掌トナスノ必要生ズ。

一、國家ハ行政ノ活動上之等ノ事業ヲ其ノ專掌トナスノ必要ヲ生ズ。

國家ハ自己ノ生存目的ヲ達センカ爲ニ又ハ臣民ノ安寧幸福ヲ增進センガタメニ種々ナル行動ヲ爲ス。平時ニアリテハ公安ヲ保持又ハ臣民ノ危害妨止ノ爲ニ、警察的行動ヲ爲スコトアリ。之等行政上ノ活動ハ、迅速敏捷ヲ要スルノミナラズ、其ノ活動ハ嚴ニ秘密ノ格保セラル、ヲ要ス。此點ニ於テハ之ヲ民業ニ委スルヨリハ、之ヲ國家ノ專掌ト爲ス方適當ナリトス。

二、國家ハ軍事活動ヲシテ完全且ツ權威アラシムルタメ、其ノ專掌ヲ必要トス。

國家ガ國權ヲ擴張シ又ハ變亂ヲ妨止スルノ目的ヲ以テ軍事的行動ヲ爲ス場合ニ於テハ必要ニ應ジ一般通信ヲ制限シ、又ハ禁止スルノ必要生ズ。而シテ之ガ取締制限等ニシテ統制アラシメ權威アラシムルニハ、私人ノ經營ニ任スルハ、危險ニシテ國家專掌ヲ必要トス。

三、無線電信ノ事業ハ、公益上及經濟上ノ事由ニ依リ之ヲ國家ノ專掌トスルヲ利益トス。

何トナレ之等ノ事業ヲ、國家ノ專掌トスルトキハ、私人的獨占事業(通信ノ事業ハ其性質上自然ノ權ニ伴フ經濟上ノ弊害ヲ防ギ得ルノミナラズ、一方ニ於テハ施設及取扱ノ正確統一ヲ計リ得ルノミナラズ、料金ノ均一低廉ヲ期スルヲ得ルノ利益アリトス。)其ノ他郵便、電信、電話及鐵道事業トハ又相對的ニ之ヲ國家ノ專掌トスルノ必要アルナリ。即チ是等ノ交通、通信機關ハ、互ニ相倚リ相援ケテ其ノ用ヲ全フスルコトヲ得ルハ勿論、同種事業ヲ經營スル機關ヲ同フスルコトヲ得ル相對的利益アルヲ以テナリ。

### 第五章 無線電信ノ管理

廣義ノ無線電信トハ、一般無線電信ノ外軍用無線電信ヲモ包含スルモノトス。

然レドモ茲ニ研究セントスルハ、軍用無線電信ヲ除ク一般無線電信ニシテ、狹義ニ於ケル無線電信ナリトス。

無線電信ハ之ヲ分類スルトキハ左ノ四種ニ分ル。

- 一、公衆通信ノ用ニ供スル無線電信
- 二、軍事通信ノ用ニ供スル無線電信
- 三、私設者ノ專用ニ供スル無線電信
- 四、官廳用無線電信

公衆通信ノ用ニ供スル無線電信及私設者ノ專用ニ供スル無線電信ニ關シテハ、別ニ本論ニ於ケル說明ニ譲リ茲ニ之ヲ省略ス。四、官廳用ノ無線電信トハ、官廳事務執行上ノ必要ニ依リ官廳ニ於テ施設シタル無線電信ヲ指稱スルモノニシテ、之カ施設ニ關シテハ逓信大臣ニ於テ之ヲ承認シ之ガ取締方法ヲ



規定セリ。此處ニハ二、軍用通信ノ用ニ供スル無線電信ニ關シ以下簡單ニ之ガ要領ヲ説明セントス。

無線電信法ハ經營ノ主體カ政府ニアルコトヲ明定シ、凡ク無線電信ニ關スル一切ノ事項ヲ規定スルモノナルモ、官制上又ハ法律上ヨリ觀ルトキハ、主務大臣ハ軍用無線電信ニ對シテハ、陸海軍大臣トシ其ノ他ノ一般無線電信ハ遞信大臣之ガ主務大臣ナリト云ハザルベカラズ。故ニ軍事通信ニ關スル明治二十七年法律第五號ニ依リ公布セラレタル軍用電信法ニ基キ施設シタル無線電信及艦船ニ施設シタル無線電信ハ素ヨリ陸海軍大臣ノ管理ニ屬スルモノニシテ、同法ガ電信法又ハ無線電信法其ノ他ノ法令ト抵觸スルガ如キ場合ハ軍用電信法ニ據ルベキモノトス。

▲軍用電信法 (明治二十七年六) 中抄錄

- 第一條 軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ通信ヲ爲スモノトス
- 第二條 軍用電信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ監理ス
- 第三條 軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス

一、固定軍用電信

二、遊動軍用電信

第四條 固定軍用電信ハ要塞衛戍軍海岸望樓監視哨所其ノ他局地ノ防禦ニ必要ナル地點及其ノ各地間通信ノ爲メニ建設スルモノトス

第五條 遊動軍用電信ハ事變又ハ演習ニ際シ臨時其ノ必要アル各地ニ建設スルモノトス

第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル處ニ依リ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

▲固定軍用電信ヲ公衆通信ニ供用ノ件 明治三十二年四月 勅令第百八十七號

公衆通信ノ用ニ供スル固定軍用電信ハ遞信大臣之ヲ告示ス

固定軍用電信ニ依ル公衆通信ノ取扱ニ關スル規則ハ遞信大臣之ヲ定ム

▲固定軍用電信公衆通信取扱規則 明治三十二年五月 遞信省令第十八號

- 第一條 固定軍用電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲナストキハ特ニ規定スルモノノ外公衆通信ニ關スル一般ノ規定ヲ適用ス
- 第二條 固定軍用電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲナストキハ軍事ニ關スル電報ノ傳送ヲ先ニスベシ但シ特ニ時間ヲ定メテ之カ取扱ヲナストキハ此限ニ在ラズ
- 第三條 固定軍用電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲナス電信取扱所ニ於ケル別使配達島嶼配達及艀船配達ハ特ニ指定シタル電信取扱所ノ外ハ之ヲ取扱ハズ
- 第四條 固定軍用電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲナス電信取扱所ニ於ケル電報ノ取扱時間及其手数料配達區域ハ別ニ之ヲ告示ス



### 本論

## 第一章 無線電信及無線電話ニ關スル政府ノ特權

茲ニ政府ノ特權トハ政府ガ國家ノ機關トシテ無線電信及無線電話ノ事業ヲ經營スルニ當リ有スル所ノ公法上ノ權限ヲ云フ。本法第一條第二條第六條第十條第十三條及第十四條ニ規定スルトコロノモノハ即チ之ナリ。蓋シ無線電信及無線電話ノ事業ハ、郵便、電信及電話ノ事業ト相並ビテ通信作用ノ最モ重要ナル地位ヲ占ムルモノナレバ、其ノ行動ノ如何ハ直ニ社會ノ進歩ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナリ。故ニ種々ノ特權ヲ認メテ以テ事業ノ行動ヲ全カラシメムコトヲ期スルノ要アリトス。郵便、電信及電話ニ關シテハ各國多ク其ノ軌ヲ一ニスト雖モ獨リ無線電信及無線電話ノ事業ハ最近ノ發達ニ係リ沿革上外國ニ於テハ主トシテ本事業ヲ直ニ國家ノ經營トセルモノ却テ少シト雖モ本邦ニ於テハ、創始當時ヨリ他ノ通信事業ト共ニ國家專掌主義ヲ確定シ、本法第一條ヲ以テ之ヲ明ニセリ。然レドモ茲ニ注意スベキハ、無線電信及無線電話ノ事業ハ、法律上ノ性質トシテ命令權ノ作用ニ依ルベキモノニアラズト雖モ、只經營ノ主體ガ國家ナルヲ以テ特ニ無線電信及無線電話ニ關スル法規中ニ是等ノ特權ヲ規定スルコトヲ得ルニ過ギザルモノトス。

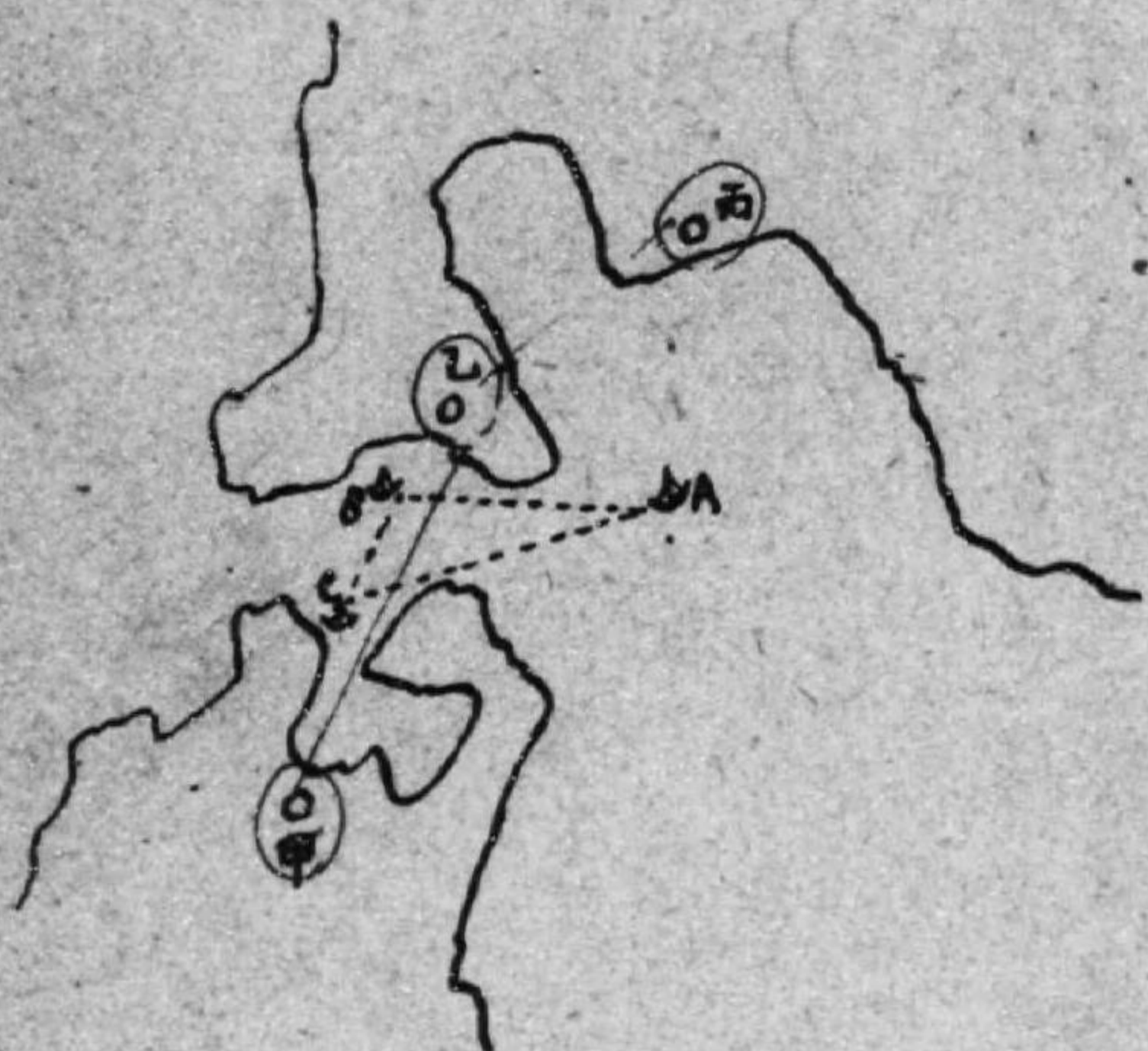
### 第一節 無線電信及無線電話ニ關スル專掌權及其ノ例外

本法第二條第一項ニ「左ニ掲クル無線電信及無線電話ハ命令ノ定ムルトコロニ據リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ私設スルコトヲ得」トアリ。之レ無線電信及無線電話ハ一定ノ條件ヲ備ヘタル場合ハ、私

### 第二號 同一人ノ特定事業用ノ例

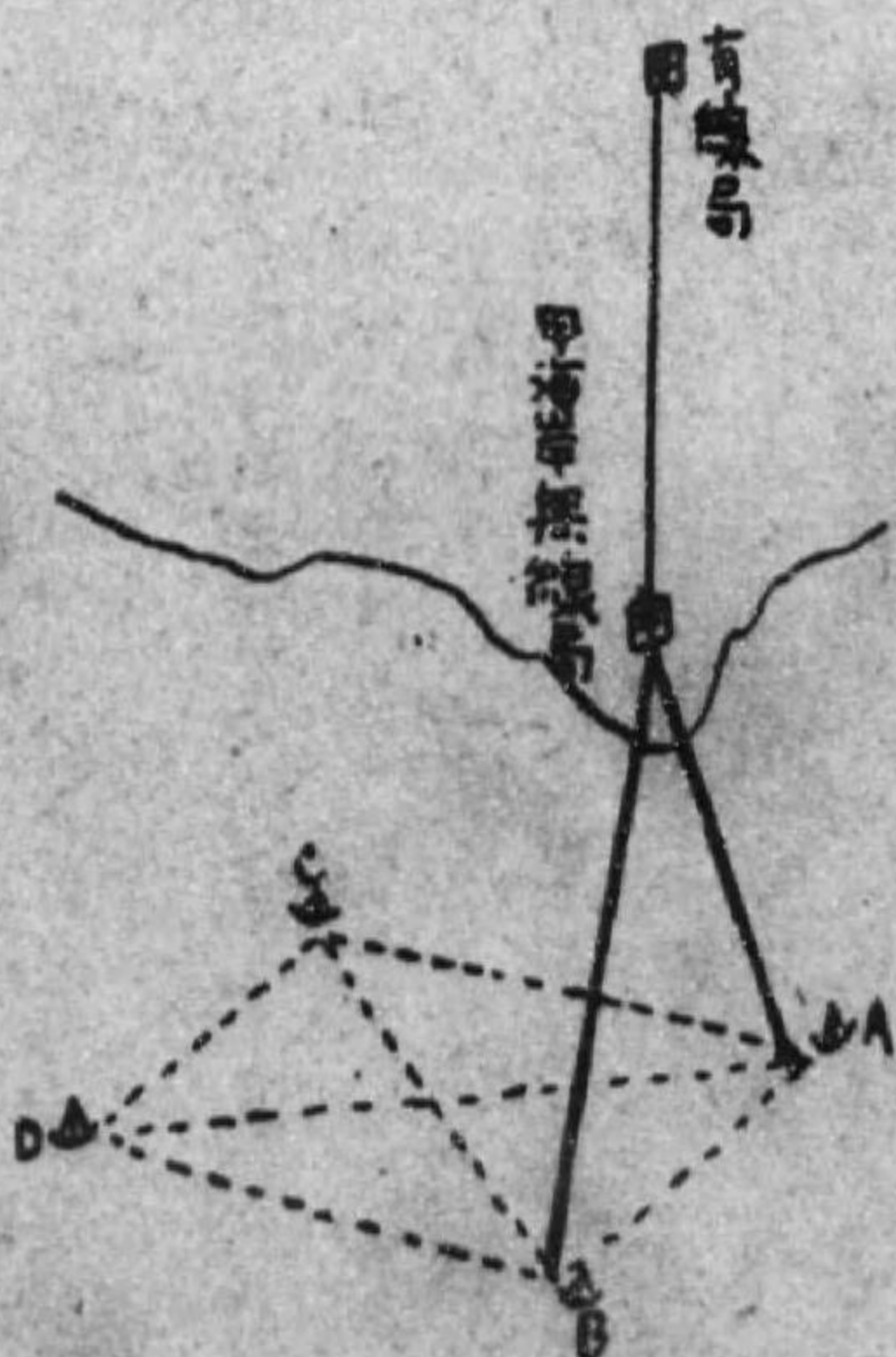
(イ) 一事業用ノモノ

同一會社ノ經營ニ係ル甲、乙、丙間ノ連絡船A、B、C相互間ニ專用ノ爲施設スルガ如シ



(ロ) 二事業用ノモノ

同一人ノ經營ニ係ル捕鯨業及トロール漁業用船A、B、C、D相互間ニ專用ノ爲施設スルガ如シ其ノA、B、兩船ヨリ甲海岸無線局ト電報送受ヲ爲サントセバ第三號ヲ併セテ出願セバ可ナリ





設スルヲ得ルヲ定メタルモノナリ。而シテ無線電信及無線電話ノ事業ガ何故ニ原則トシテ國家ノ專掌トナスベキモノナルカハ既ニ之ヲ概説セリ。然レドモ此ノ原則ヲ絕對ニ貫クトキハ、或ル場合ニ於テハ通信ノ便宜ト發達トヲ阻害スルコトアリ。特ニ無線電信及無線電話ノ事業ニ於テ然リトス。故ニ本法ハ場合ヲ限リテ之ガ例外ヲ認メ以テ右ノ如キ場合ニ於ケル不便ヲ匡救スルト同時ニ、世界ノ大勢ニ適應シテ無線電信及無線電話ノ經濟的普及ニ資センコトヲ期セリ。即チ第二條第一號乃至第六號ニ規定スルモノ之ナリ。以下順次其ノ大要ヲ述ベントス。

一、航行ノ安全ニ備フル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ。

無線電信ハ船舶ニ於ケル眼目ナリ。大洋航行中人命財貨ノ保全ハ、一ニ無線電信ノ機能ニ俟ツコト大ナルヲ以テ、今ヤ是等ノ機器ハ船舶必須ノ要具タルニ至レリ。米國ノ如キハ一九一〇年七月、船舶無線電信裝置ノ強制ヲ實施シ一九一四年一月ニハ倫敦ニ於テ海上生命保全ニ關スル列國會議ニ於テ特ニ無線電信ナル一章ヲ設ケテ、五十人以上ヲ運送スル船舶ニ對スル無線電信裝置ノ強制ヲ議約セルノミナラズ之ト前後シテ、加奈陀、濠洲、英國等又船舶無線電信裝置ノ強制ヲ立法セリ。本邦ニ於テハ未ダ是等ノ制定ナキモ本號ニ於テ、無線電信ノ一目的トシテ之ヲ認メ之レガ普及發達ニ資セルニ過ギズ。

二、同一人ノ特定事業ニ用フル船舶相互間ニ於テ其事業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ本號ニ依ル施設ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス。

- 1、同一人ノ特定事業ニ用フル船舶ニ施設スルモノタルコト
- 同一人トハ、自然人ノミニ限ラズ、法人ヲモ含ムモノトス。又特定事業トハ一事業タルヲ要セズ
- 同一人ノ經營スル事業タルヲ以テ足ルモノトス。
- 2、其ノ施設船舶相互間ニ於テ特定事業用ノ通信ニ使用スルモノタルコト



茲ニ施設船舶トハ必シモ同一人ノ所有タルヲ要セザルモノトス。

三、電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ施設者ノ専用ニ供スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

本號ノ施設ハ、左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス。

- 1、電信官署トノ間ニ於テ施設者ノ電報託送ニ専用スルモノナルコト
- 2、公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノナルコト

茲ニ公衆通信ノ連絡ナキトハ私設無線電信又ハ無線電話ヲ裝置スベキ場所(陸地相互ノ時ハ一方又ハ一方ガ電報直配達區域外(電話加入)又ハ電信電話官署ヲ設置セザル船舶ナル場合ヲ云フ(私設無線電信規則第一條))ガ電報直配達區域外又ハ無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナク第三條ノ規定ニ依ルヲ不適當トス

四、電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナク第三條ノ規定ニ依ルヲ不適當トス

ル陸地相互間又ハ陸地船舶間ニ於テ同一人ノ特定事業ニ用フル目的ヲ以テ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

本號ハ同一人ノ特定事業用トシテ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノニシテ

- 1、陸地相互間
- 2、陸地船舶間

ノ二場合アリ。而シテ該施設ヲ認メラル、ニハ二ツノ條件ヲ具備スルヲ要ス。

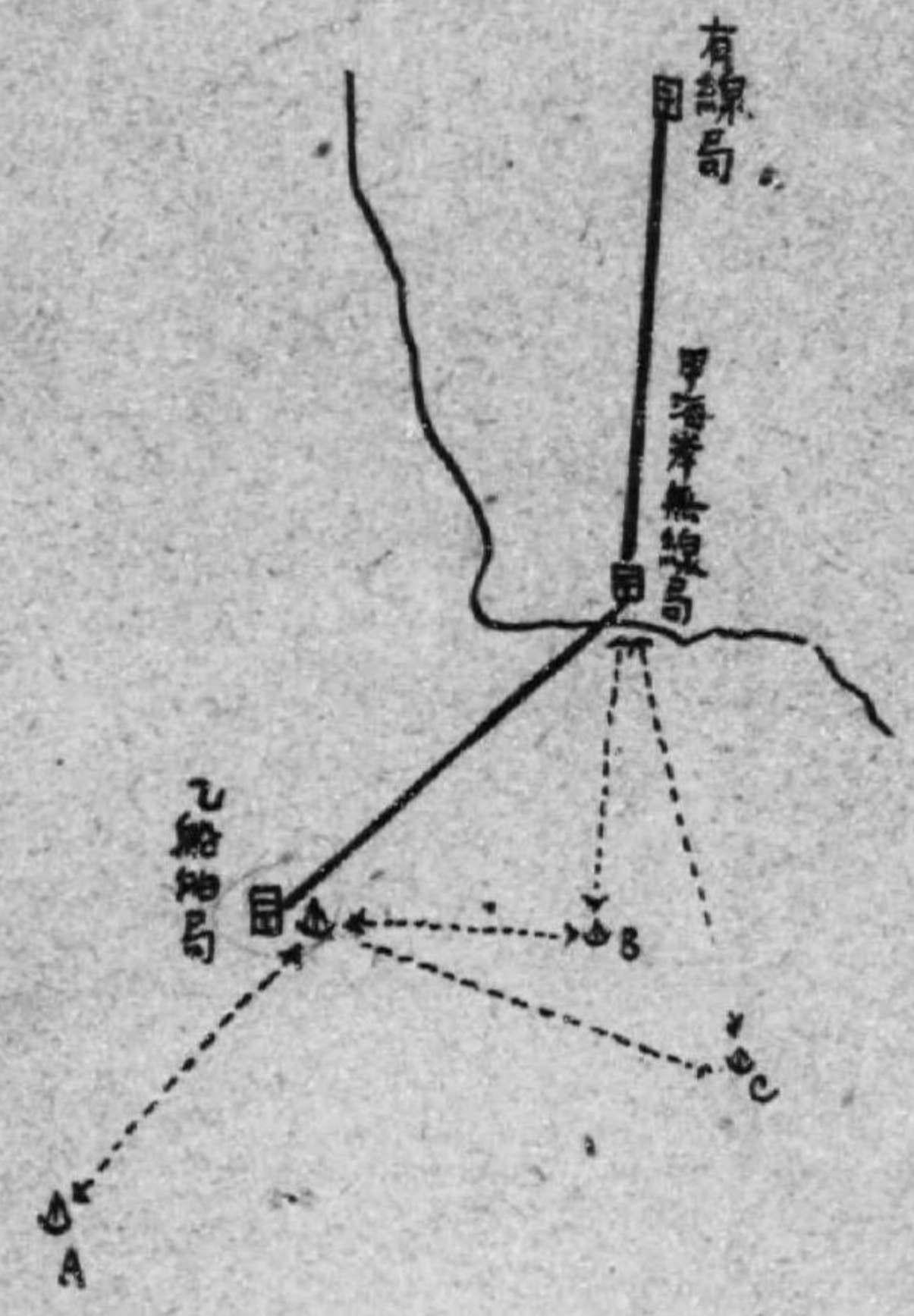
- 1、公衆通信ノ連絡ナキコト
- 2、電報託送用トシテ無線電信又ハ無線電話ヲ施設スルヲ不適當トスルコト

如何ナル場合ヲ不適當トスルヤハ一ニ遞信大臣ノ認定ニ俟ツベキモノナルモ要スルニ既設局所ヘノ利用上地勢ノ關係又ハ工事ノ難易其他船舶連絡等ノ關係ヲ考察シ實際ノ場合ニ於テ決定セラル

第三號 電報送受ニ専用ノ爲施設スルノ例

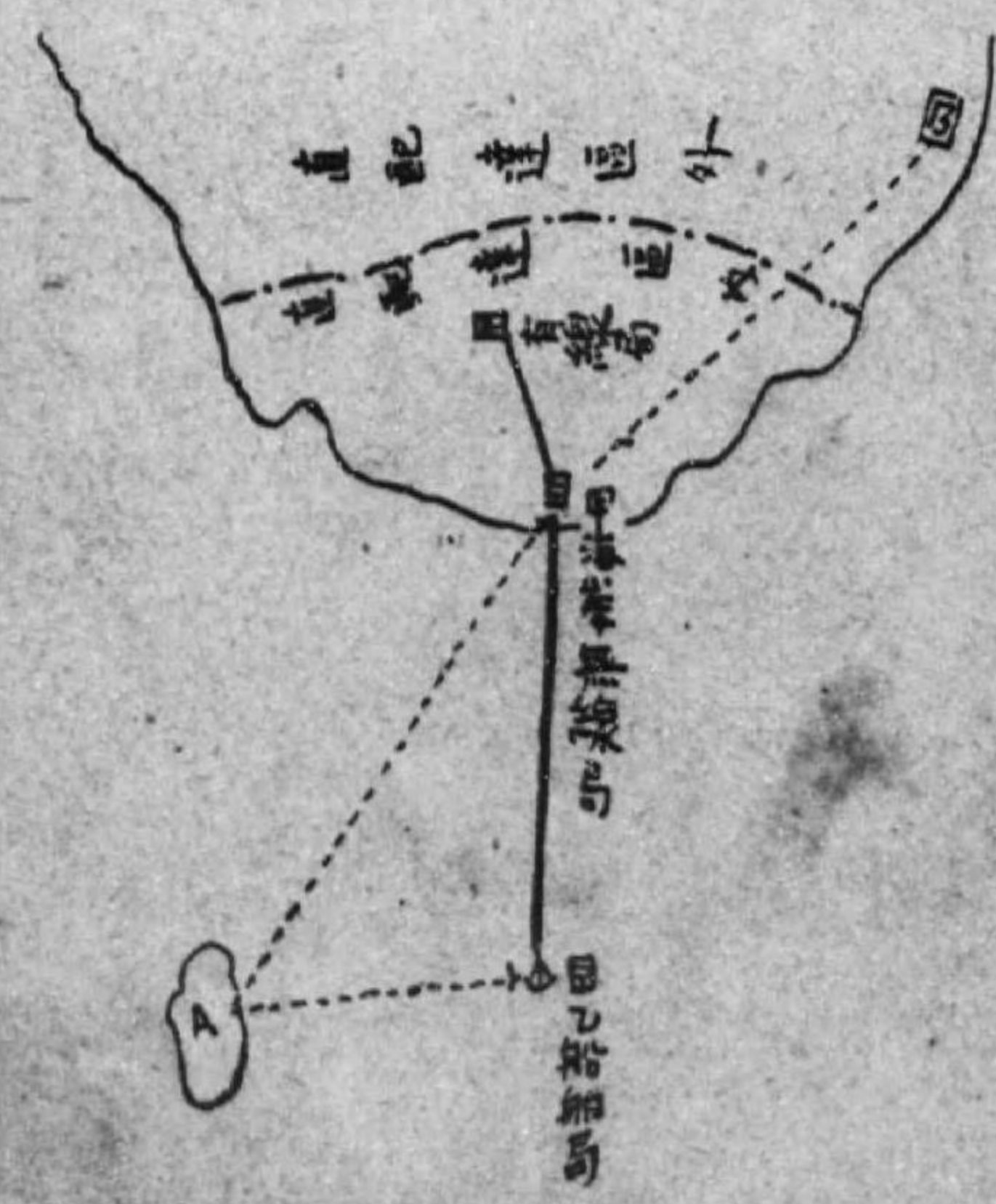
(イ) 船舶ニ施設スルモノ

A、B、Cノ各船ヨリ甲海岸無線局又ハ乙船舶局ヘ電報託送ノ爲A、B、C船ニ施設スルガ如シ



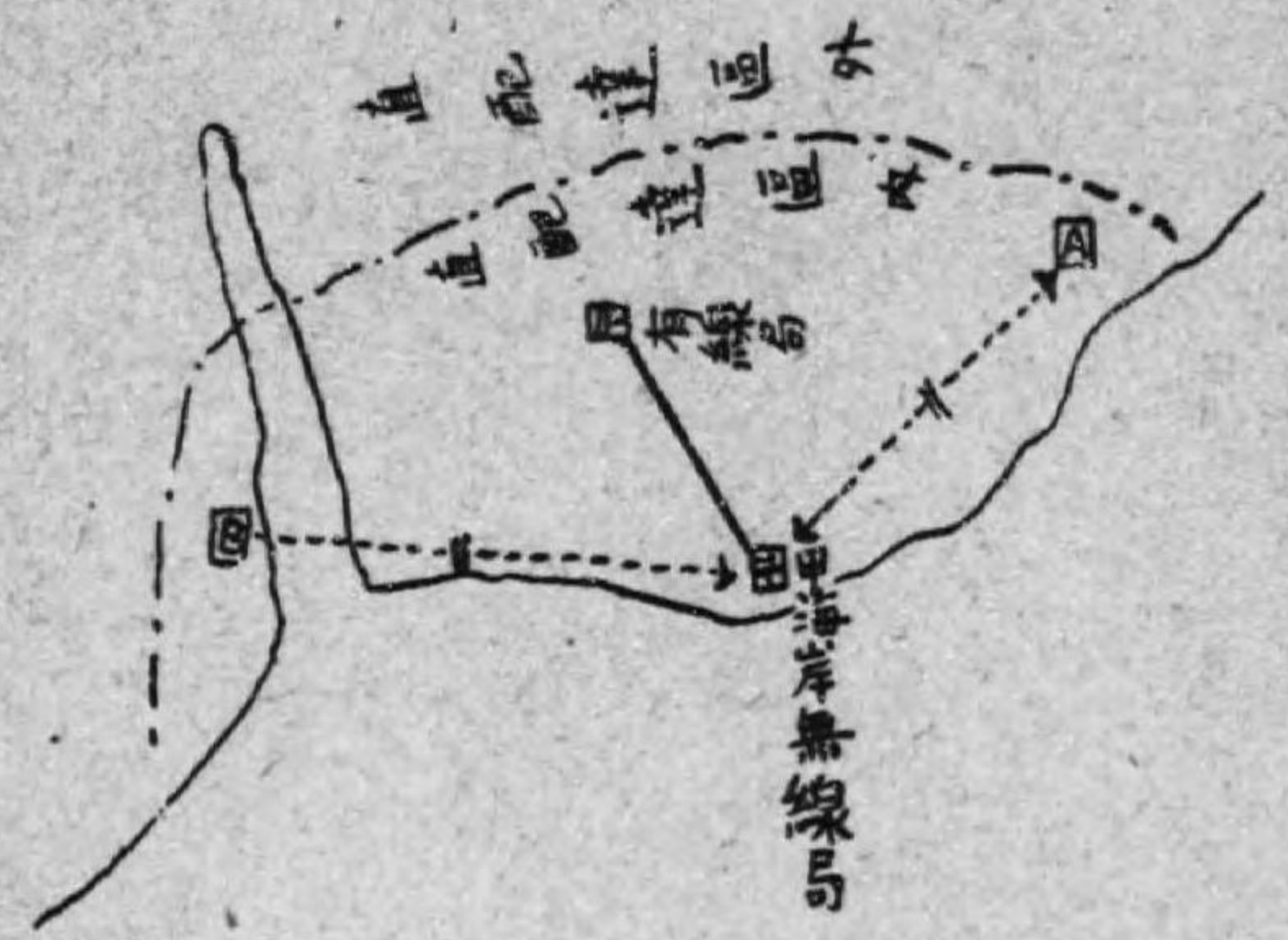
(ロ) 陸地ニ施設スルモノ

A島ヨリ甲海岸無線局若ハ乙船舶局ヘ又B地ヨリ甲海岸局ヘ各電報託送ノ爲A島若クハB地ニ施設スルガ如シ



備考 電信電話ノ連絡ナシトハ私設無線設置所カ直配達區域外又ハ加入區域外ナル場合ヲ云フ



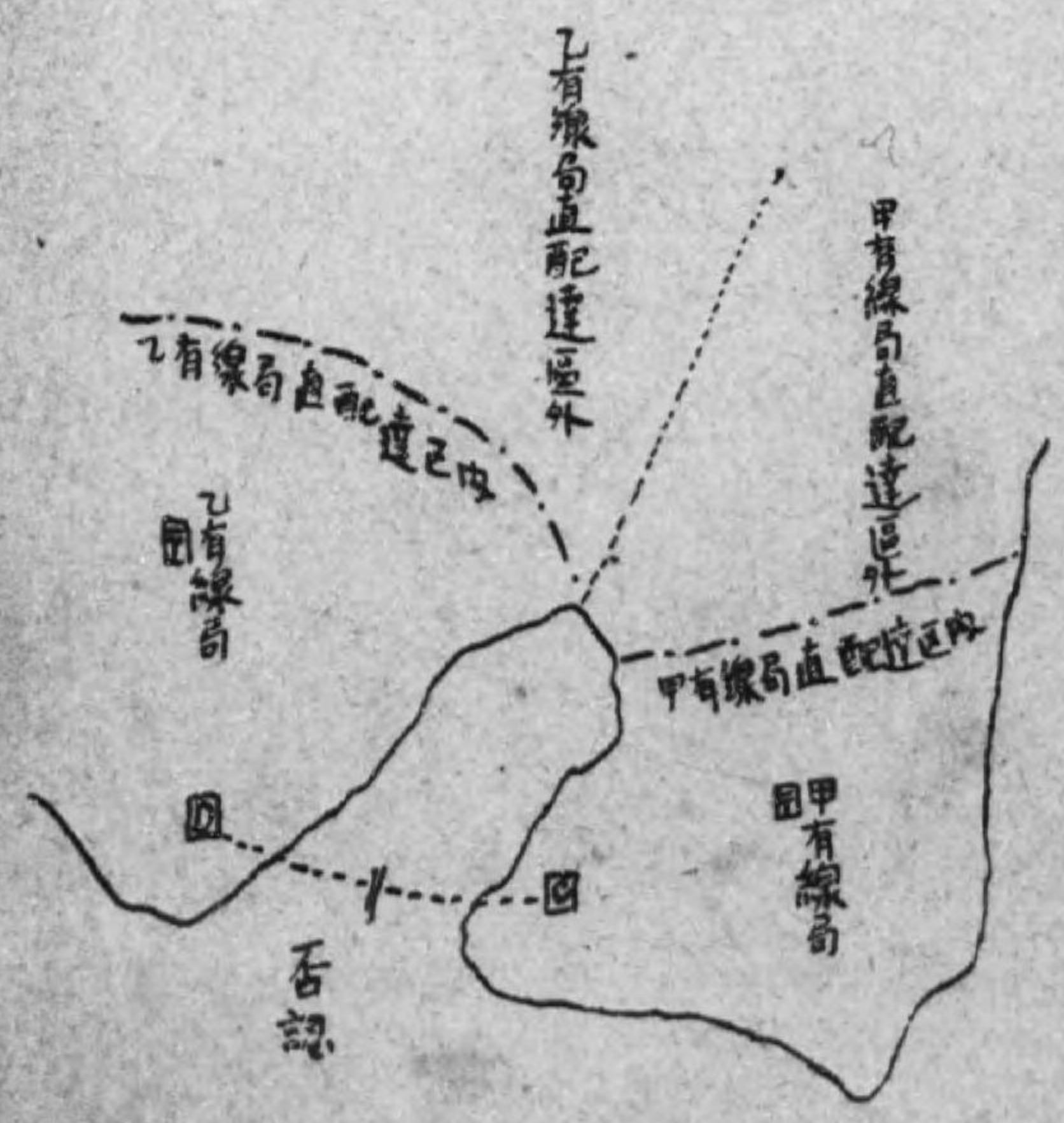


第三 否認ノ例

A、B 何レモ直配達区内即電信ノ連絡アル地ニ在ルヲ以テ託  
送用私設ハ絕對ニ認メラザルモノトス

第四號 否認ノ例

C、D、何レモ直配達区内即電信ノ連絡アル地ニ在ルヲ以テ C  
Dハ各甲局又ハ乙局ニ頼信スルモノトス  
(甲有線局乙有線局間ハ有線ノ連絡アルハ勿論ナリトス)

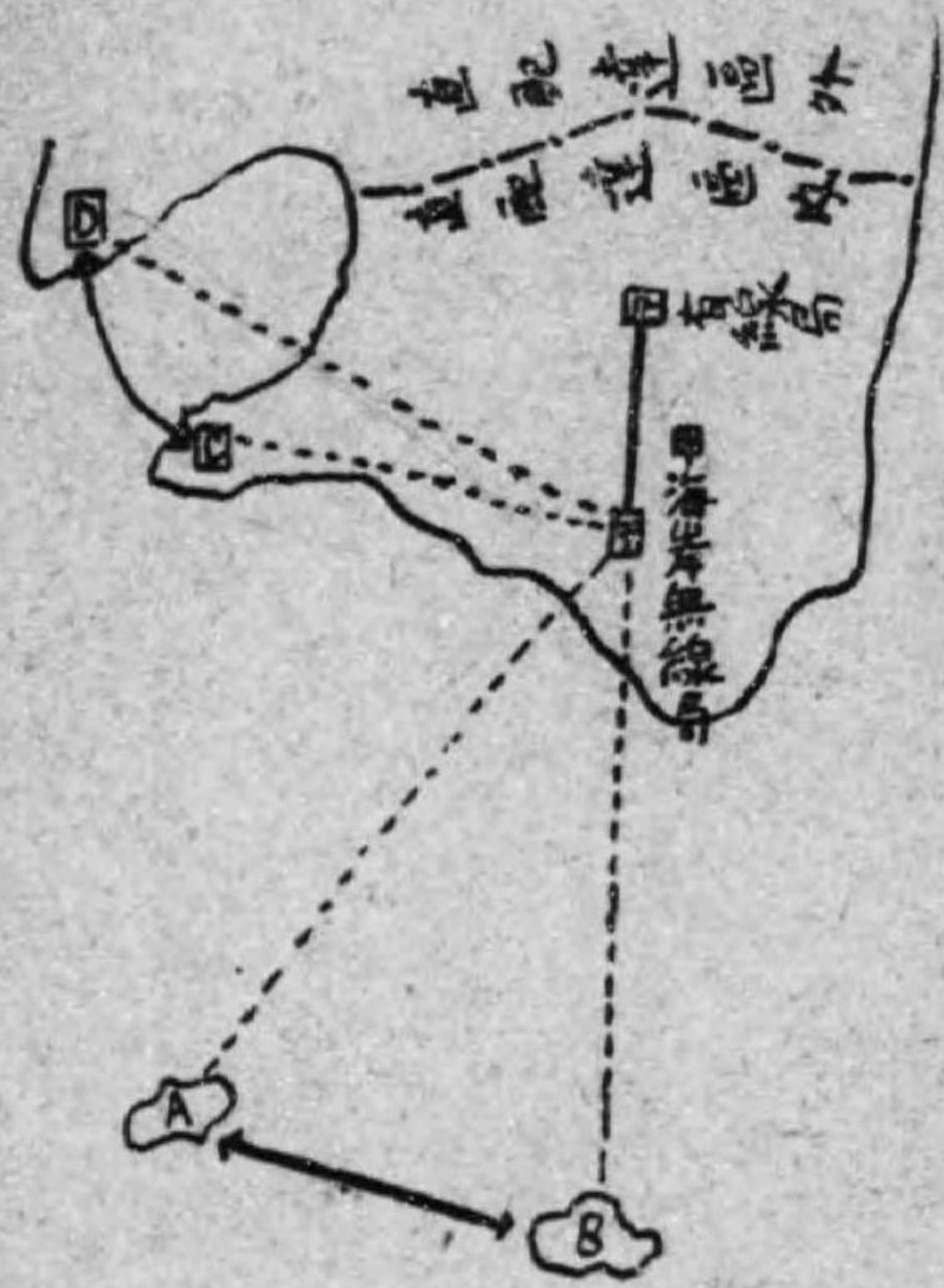




第四號 同一人ノ特定事業用ノ例

(イ) 陸地相互間ニ施設スルモノ

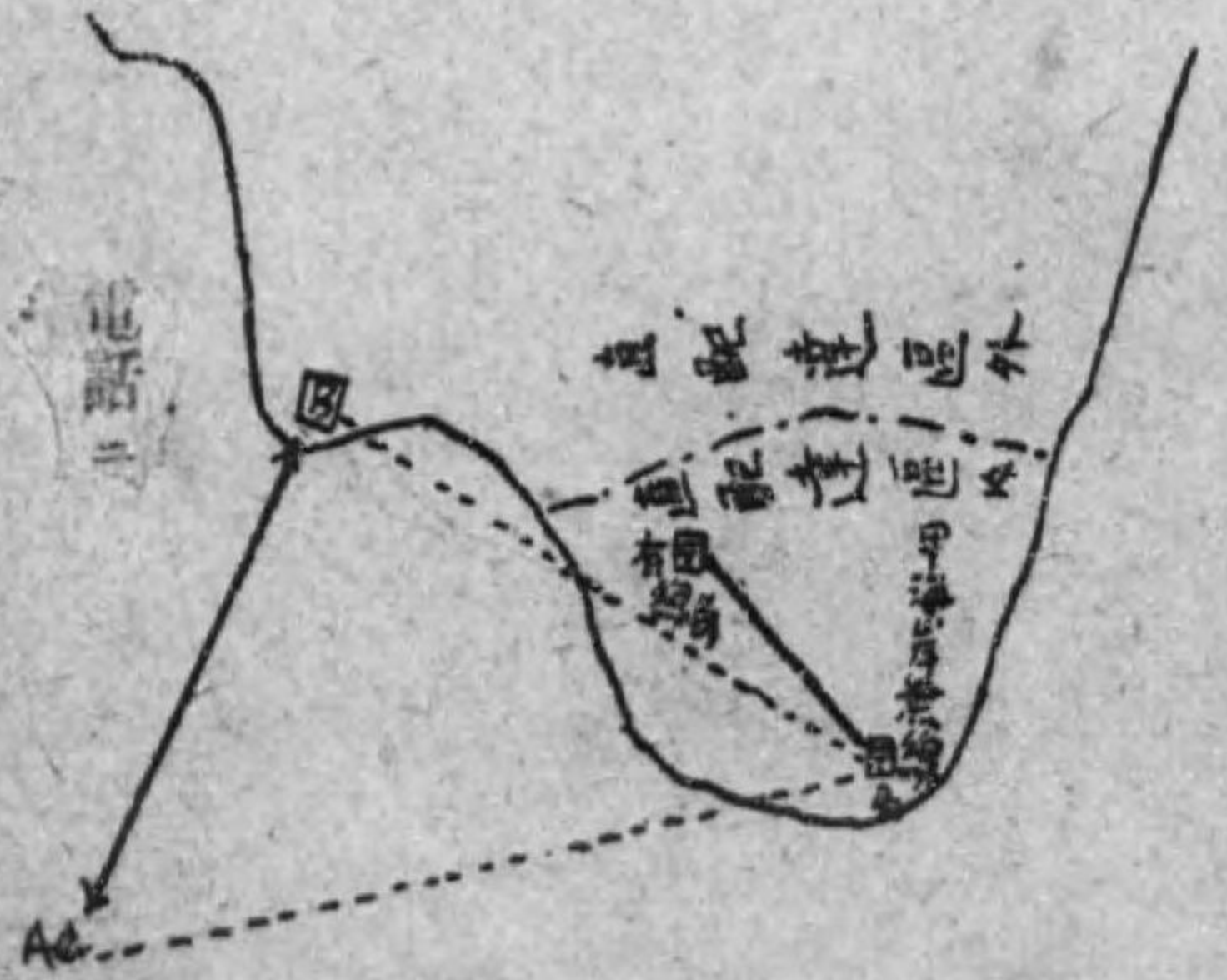
A、B 兩島間又ハ C、D 兩地間ニ専用ノ爲施設スルガ如シ此ノ場合ニ於テ A、B 又ハ C、D 間通信ヲ各甲海岸無線局ヘ託送スルトセハ 照點通リトナリ不適當トナルコト一見明瞭ナルベシ



備考 電信電話ノ連絡ナシトハ無線設置所ノ一方又ハ双方カ直配達區外又ハ加入區外ナル場合ヲ云フ

(ロ) 陸地船舶間ニ施設スルモノ

A 船ハ B 地附近ノ水難救護ニ従事スル船トシ B 地ハ其ノ本部ナリトス其ノ相互間ニ専用ノ爲施設スルカ如シ此ノ場合託送ヲ不適當トスルコトイ(二)同シ





ベキモノトス。

五、無線電信又ハ無線電話ニ關スル實驗ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

1、無線電信又ハ無線電話製作所等ガ其ノ機器ニ關スル實驗

2、無線電信又ハ無線電話ノ學術的研究トシテノ實驗

ニ供スルモノ (私設無線電信規則 則第二條參照) ハ本號ニ該當スルモノニシテ該施設ハ實驗ニ專用スルモノタルコトヲ

要スル外、施設場所等ニ關シテ制限ナキモノトス

六、其他主務大臣ニ於テ特ニ施設ノ必要アリト認メタルモノ

無線電信電話ノ進歩發達ハ殆ンド將來ヲ豫測スベカラザルモノアリ。現在ノ發達及之ガ利用程度ニ於テハ、第一號乃至第五號ノ施設ヲ認ムルヲ以テ足ルト雖モ將來其ノ他ノ施設ヲ認ムル必要生ズベキ場合ヲ測シ得ベシ即チ本號ノ規定アル所以ナリトス。

參考

私設無線電信規則

第三條 航空機ハ船舶ニ準ジ之ニ無線電信ノ私設ヲ許可スルコトアルベシ。

## 第二節 無線電信及無線電話ニ關スル主務官廳ノ權限

無線電信及無線電話ニ關スル主務官廳トハ、無線電信及無線電話ヲ主管スルトコロノ官廳ヲ云フ。故ニ官制又ハ法律ノ定ムルトコロニ依リ之ヲ觀レバ、軍用無線電信無線電話ニ關シテハ陸海軍大臣、其ノ他一般ノ無線電信及無線電話ニ關シテハ遞信大臣之ガ主務官廳ナルコトヲ知ルベシ。

蓋シ本法ガ何々大臣ト云ハズシテ主務大臣ト云ヘルハ、一ツハ他日官制ノ改革アリテ其ノ名稱又ハ主管ヲ變更スルコトアルヲ慮リ又一ツハ右大臣ノ名稱ヲ一々列舉スルノ煩ヲ省カムトスルノ主旨ニ



出デタルモノナリ。而シテ之等主務官廳ノ有スルトコロノ權限トハ、本法第六條乃至第十條及ビ第十二條第十四條ニ規定スルトコロニシテ左ノ如シ。

一、私設ノ無線電信及無線電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルノ權 (第六條)

國家ガ無線電信及無線電話ノ專掌ヲナシタル所以ノモノハ、凡ク公共ノ使用ニ供シ一般ノ公益ヲ擴メ行政經濟上ノ便益ヲ増進セムガ爲ニ外ナラズト雖モ、之ヲ一貫スルトキハ、却テ無線電信ノ發達進歩ヲ阻害スル場合ナキヲ保セズ、依リテ之ガ例外トシテ一定ノ條件ノ下ニ之ガ私設ヲ認ムト雖モ國家ハ之ニ對シ相當ノ義務ヲ負ハシムルハ、敢テ不當ニ非ズ、即チ其ノ施設者ノ使用目的ヲ甚ダシク害セザル限リハ之ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ノ通信ノ用ニ供セシメ以テ一般ノ公益ヲ計ルハ寧ロ國家ノ正ニ爲スベキ任務ナリ。而シテ主務大臣ガ之等ノ用ニ供セシムルニハ、命令ノ規定ニ依ルヲ要ス。

茲ニ命令トハ遞信省令第五三號(大正四年拾月)私設無線電信公衆通信取扱規則ニシテ公衆通信取扱方ニ關シ詳細ニ之ヲ規定セリ。今之ガ共用ニ依リ關係スル要綱ヲ述ブレバ左ノ如シ。

(一)私設無線電信使用ノ順位及取扱範圍ノ制限

イ、施設者ノ專用通信ハ、一般公衆電報ト同一順位タルモ船舶航行ノ安全ニ必要ナル通信ニ限り

新ニ規定アル場合ノ外他ノ通信ニ先チ傳送スルコトヲ妨ゲザルコト(同規則第二條)

ロ、公衆通信ニ供用セラレタル時ハ、其ノ期間託送電報ノ取扱ヲ中止スルコト

(二)施設者ノ報償請求權及物權設備ノ保管義務

イ、公衆無線電報ノ取扱ニ對シ所定ノ支給(同規則第二條)ヲ受クルコト(同規則第四條)

ロ、公衆通信事業用物品ハ所定ノモノニ限り所轄遞信局ヨリ當該施設者ニ交付セララル、コト(同規則第五條)

ハ、公衆通信取扱所ノ標札、原書保管箱ノ設備並ニ前項交付物品ノ保管及之ガ亡失毀損ニ對シ責任ヲ負フコト(同規則第六條乃至第八條)

(三)電信官署トシテノ公法上ノ特權獲得

公衆通信ニ供用ト同時ニ電信官署トシテ專用物件ノ差押ヘ及公課ノ免除其ノ他ノ特權ヲ獲得スルコト(無線電信法第二十八條)

(四)通信従事員ノ公法上ノ責任

私設無線電信ノ従事員トシテハ、私法上ノ雇傭關係ナルモ、公衆通信又ハ軍事通信ノ従事員トシテハ公務員トシテ無線電信法其他一般刑罰法令ニ依リ總テ一般電信官署ノ吏員ト同様ノ責任ニアルコト

主務大臣ハ、私設ノ無線電信ヲ公衆通信及軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシメ得ルト雖モ之等ノ通信ヲ爲サシムルニ當リ、場合ニ依リ通信ノ秘密確保又ハ通信疏通其他ノ取扱上到底私設無線電信ノ取扱者ニ一任シ難キ場合ヲ生ズルコトアルヲ以テ、斯カル場合ニハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ取扱ヲナサシムルコトヲ得ルナリ(法第六條第二項)

茲ニ注意スベキハ斯クノ如ク私設無線電信ヲ公衆通信又ハ軍事通信ノ用ニ供セシムルコトハ、國家命令權ノ作用ニシテ國家ハ之等ノ使用ニ對シテハ全ク報償ヲ與ヘザルモ素ヨリ妨ゲザルトコロナリ。サレド又一方ヨリ見レバ之等ノ使用ニ供セラレシ爲ニ施設者ハ多少ノ負擔ヲ増加シ他面ニ於テハ又自己ノ專用ヲ害セラル、コトアルベキヲ以テ右ノ場合ニハ之ニ關シ相當ノ報償ヲ支給スルコト、ナレリ(前掲(三)ノ項參照)



二、公衆通信上又ハ軍事上必要ト認ムル時ハ私設ノ無線電信無線電話ノ許可ヲ取消シ又ハ其設備ノ變更ヲ命ズル權（法第七條）

國家ガ私設無線電信又ハ無線電話ヲ認ムルハ、公衆通信又ハ軍事通信ノ經營運用ニ支障ナキ範圍タルハ無論ナルヲ以テ、私設無線電信又ハ無線電話ノ爲ニ其經營運用ニ支障アリト認ムル時ハ、國家ハ何時ニテモ其ノ必要ニ應シテ場合ニヨリ其許可ヲ取消シ又ハ其ノ設備ニ相當ノ變更ヲ命ズルノ要アリ、之第七條ノ規定アル所以ナリ。

三、公安ノ爲必要ト認ムル時ハ私設無線電信無線電話使用ノ制限停止又ハ其ノ機器附屬具ノ除却ヲ命ズルノ權（法第八條）

公ノ安寧秩序ヲ維持スルハ國家ノ生存上必要欠クベカラザルモノナレバ、國家ハ之ヲ亂サントスルモノニ對シ其ノ何レノ方面ニ於テモ之ヲ禁遏スルノ策ヲ取ラザルベカラズ。是レ國家ガ犯罪ニ就テハ刑罰ノ制裁ヲ設ケ民事ニ就テハ其ノ法律行爲ヲ無効トシ又行政上ニ於テハ警察權ノ作用ヲ認メ之ガ維持ニ努ムル所以ナリ。而シテ無線電信及無線電話ニ依ル通信ノ如キ迅速且ツ輕便ナル通信方法ヲ何等ノ制限ナク自由ニ放任セバ之ニ依リテ公共ノ安寧ヲ害スルコト決シテ尠シトセズ。之レ本法ガ「主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ私設無線電信無線電話又ハ外國船舶ニ裝置シタル無線電信無線電話ノ使用ヲ制限停止又ハ其ノ機器附屬具ノ除却ヲ命ズルコトヲ得」ト規定セシ所以也。「使用ノ停止」トハ永久ニ之ヲ禁止スルノ意味ニアラズシテ公安ヲ維持スルニ必要ナル一定期間其ノ使用ヲ禁止スルヲ云フ。「制限」トハ使用ノ場合時間又ハ電波長等ニ對シ其ノ一部分ヲ許シ他ノ一部分ヲ禁止スルヲ云フ。「機器附屬具ノ除却」トハ停止ノ一場合ニシテ其ノ目的ヲ達スル方法トシテ機器附屬具ヲ取除カシム

ルヲ云フ。是レ無線電信無線電話ハ有線電信及電話ト異ナリ之ヲ取締ルニ困難ナルヲ以テ其ノ使用ヲ不能ナラシムルニハ機器附屬具ノ除却ヲ必要トスル所以ナリ。其ノ他主務大臣ハ必要ニ應ジ當該官吏ヲシテ該機器附屬具ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ除却セシムルコトヲ得（同條第二項）ト規定セリ。

四、私設無線電信又ハ無線電話ノ施設者本法ニ基キ發スル命令又ハ處分ニ違反シタルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ使用ノ停止ヲ命ズルノ權（法第九條）

主務大臣ハ私設無線電信無線電話ノ施設者ニ對シ之ガ取締上本法又ハ本法ニ基キ必要ナル命令ヲ發シ又ハ行政處分ヲナスコトアリ。之ニ違反セル場合ニ對シ相當制裁ヲ加ヘテ其ノ取締上遺憾ナキヲ期スルノ要アリ。即チ此場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ制裁トシテ私設無線電信又ハ無線電話ノ許可ヲ取消又ハ使用停止ヲ命ズルノ權能アルコトヲ規定セリ。

五、私設無線電信又ハ無線電話ノ許可ヲ取消シタルモノニ對シ其ノ機器工作物ヲ撤去セシムルノ權（法第十條）

本法第七條及第九條ニ依リ私設無線電信無線電話ノ許可ヲ取消サレ又ハ施設者自ラ私設無線電信又ハ無線電話ヲ廢止シタルトキハ、其ノ機器工作物ノ撤去ヲ強制スルノ必要アリ。是レ亦本施設ガ有線電信及電話ノ場合ト異リ其ノ性質上單ニ取消又ハ廢止ノミニテハ取締上ノ完全ヲ期シ難キヲ以テ其ノ使用ヲシテ不可能ナラシムル爲、該機器工作物ノ撤去ヲ強制スルノ要生ズ。是レ第十條ノ規定アル所以ナリ。

六、無線電信無線電話ノ不法施設ニ對シ吏員ヲシテ其ノ場所ニ立入り機器必要ノ措置ヲ爲サシムルノ權（法第十三條）



不法ニ無線電信又ハ無線電話ヲ施設(即チ法第二條各號ニ依リ施設)スル者ニ對シテハ、國家ハ自衛上嚴重ナル取締ヲ要ス。之レ平時ニ於テモ然ルノミナラズ戰時ニ於テハ特ニ其ノ取締ノ完全ヲ期スルノ要アリトス。然リト雖モ之ガ摘發ハ其ノ性質上最モ困難ナルヲ以テ司法警察官ノ活動ノ外必要ニ應ジ無線電信無線電話ノ技能ヲ有スル官吏ヲ其ノ搜查處分ニ參與セシメ取締上遺憾ナキヲ期スルノ要アリ、之レ本法第十三條ヲ以テ主務大臣ハ不法施設ヲ認メタルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入り機器工作物ノ検査、機器附屬具ノ除却其ノ他相當ノ措置ヲ爲サシムルコトヲ得ト規定セル所以ナリ。

七、船舶ノ一部ヲ使用シ又ハ特殊ノ供給設備ヲ命ズルノ權(法第十四條)

無線電信及無線電話ノ事業ニ關シテ一種ノ使用權及之ニ附隨セル特權ヲ定メタルモノニシテ一般ノ土地收用法ニ對シテ一ツノ公用徵收權ノ作用ヲ認メタルモノナリ。  
公用徵收トハ、私人ノ財産ヲ現形ノ儘ニ徵收シ之ヲ公益事業ニ供スルモノヲ云フ。國家ハ公益上必要アリト認ムルトキハ、何時ニテモ一般ノ船舶ニ對シ無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ爲船舶ノ一部ヲ使用シ場合ニ依テハ必要ナル特殊ノ供給(電力食料又ハ勞務等)又ハ設備(模倣管、燈)ヲ命ズルヲ得ル權限ヲ留保セルモノニシテ之ガ爲相當ノ使用料及特殊ノ供給設備ニ對スル實費ニ限り請求ニ依リ之ヲ支給スベシ。

第二章 私設無線電信ノ施設及運用等ニ關スル制限

國家ガ無線電信ノ私設ヲ認メタルハ、國家ノ無線電信事業ニ關スル專權ヲ侵犯セザル範圍タルベキハ勿論ナルヲ以テ、其ノ經營ニ係ル公衆通信及軍事通信ノ施設及運用ニ支障ナカラシムルタメ私設

無線電信ニ對シ之ガ必要ノ制限ヲ加フルヲ要ス。是レ本法第三條乃至第五條ノ規定アル所以ナリ。

一、機器ノ裝置及運用ニ關スル制限並通信従事者ノ資格

本法第三條ニ依レバ之等ノ制限ハ凡テ命令ノ定ムルトコロニ依ルトナセリ。

無線電信ノ如キ學術ノ進歩普及ノ程度等ニ應ジ之ガ取締ハ時ニ變更スルヲ要ス。故ニ法律ヲ以テ之ニ關スル取締方法ヲ規定スルハ適當ナラザルヲ以テ命令ノ規定ニ讓リタルニ外ナラズ。

茲ニ命令トハ私設無線電信規則(大正四年十月 省令第四六號)ニシテ同規則第四條ニ於テ機器及其ノ裝置ヲ又第十

五條ニ於テ通信従事者資格ニ關シ之ヲ規定セリ。

今該規定ノ定ムル制限要領ヲ擧グレバ左ノ如シ

私設無線電信規則

第四條

私設無線電信ノ機器及其ノ裝置ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左記各號ニ適合スルモノナルコトヲ要ス。

- 一、機器ハ一分時ニ片假名八十字歐文二十語以上ヲ送受シ得ルモノナルコト
- 二、受信機ハ百乃至一千八百「メートル」ノ電波長ヲ以テ傳送スル通信ヲ受ケ得ルモノナルコト
- 三、振動電路ニ供スル電力ハ晝間所要通達距離ニ應ジ左ノ標準(變壓器ノ一次捲線又ハ之ニ相當)ヲ超過セザルコト

晝間所要通達距離

- 二十海里 五分ノ一「キロボルトアムペリア」以下
- 百海里 二分ノ一「キロボルトアムペリア」以下



- 二百海里 一「キロボルトアムペリア」以下
- 三百海里 二「キロボルトアムペリア」以下
- 四百海里 三「キロボルトアムペリア」以下
- 五百海里 七「キロボルトアムペリア」以下

四、電波ハ純粹ニシテ衰滅ノ僅少ナルコトヲ要シ、其ノ波長ハ百乃至一千八百「メートル」ノ間ニ於テ別ニ指定スル所ニ從ヒ之ヲ使用シ得ル裝置ヲナスコト

【備考】規定ニ適合スルヤ否ヤヲ検査ノ爲工務落成届出ヲ待テ検査員ヲ派遣シ検査證書ヲ交付ス（同規則第八條第九條）

同規則第十五條

私設無線電信ノ通信従事者ハ私設無線電信通信従事者資格檢定規則ニ依リ相當資格ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

但シ無線電信法第二條第五號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信従事者ニシテ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニアラズ

外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ前項ノ規定ニ依ルコトヲ得ザル特殊ノ事由アルモノハ遞信大臣ノ許可ヲ得テ内地ノ目的港ニ到着スル迄國際無線電信條約附業務規則第十條ニ依リ外國主官廳ニ於テ交付シタル甲種又ハ乙種證明書ヲ所持スルモノニシテ私設無線電信通信従事者資格檢定規則ニ規定スル第一級又ハ第二級ノ資格ヲ有スル者ノ爲シ得ル通信ニ從事セシムルコトヲ得。

私設無線電信通信従事者資格檢定規則（抄録）

- 第一條 私設無線電信通信従事者ノ資格ハ左ノ區別ニヨリ十七歳以上ノ者ニ付之ヲ檢定ス
- 第一級 無線電信法第二條ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信ニ從事シ得ル者
- 第二級 無線電信法第二條第一號第二號第四號乃至第六號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信及同條第三號ニ依リ施設シタル私設無線電信通信従事者資格檢定規則（抄録）

ル私設無線電信ノ和文通信並同條第三號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信ノ補助ニ從事シ得ル者

第三級 無線電信法第二條第五號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信及同條各號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信ノ補助ニ從事シ得ル者

第二條

遞信大臣ハ檢定試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ付與ス

第四條 無線電信若クハ電信ニ依ル公衆通信又ハ無線電信ニ依ル軍用通信ニ從事シ二年以上實務ニ經驗ヲ有スル者ハ私設無線電信通信従事者資格檢定委員ノ銜ヲ經テ試験ニ依ラズシテ左ノ區別ニ從ヒ合格證書ヲ受ケルコトヲ得

- 一 無線電信ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者ハ第一級以下
- 二 無線電信ニ依ル軍用通信ニ從事シタル者ハ第二級以下
- 三 電信ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者ハ第三級

第二級又ハ第三級ノ合格證書ヲ有スル者亦左ノ區別ニ從ヒ前項ニ同ジ

- 一 第二級ノ合格證書ヲ有シ二年以上無線電信法第二條第三號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信ノ補助ニ從事シタル者ハ第一級
- 二 第三級ノ合格證書ヲ有シ二年以上私設無線電信ノ通信ノ補助ニ從事シタル者ハ第二級（以下省略）

二、使用ニ關スル制限

本法第四條ニ依レバ「私設無線電信ハ主務大臣ニ於テ公益上必要ト認ムル通信ノ外施設ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ズ」ト規定セリ。而シテ本條ニ於テ主務大臣ガ公益上必要ト認ムル主ナル場合トシテ、船舶遭難通信、氣象通信及報時通信トシ詳細ノ規定ヲ命令ニ讓レリ。茲ニ命令ノ定ムル私設無線電信施設ノ目的外使用トハ、私設無線電信規則第二十七條ヲ云フ。即チ

- 一 船舶遭難通信及航行警報ニ關シ他ノ無線電信トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ
- 二 氣象及時刻ノ承合又ハ機器調整ノ爲他ノ無線電信トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ
- 三 無線電信機ヲ裝置スル電信官署ノ指示ニ從ヒ之ト交信ヲ必要トスルトキ



四 軍事通信ノ必要ニ依リ軍用無線電信トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ  
是レナリ。

尙同規則第二十條ニ依レバ、私設無線電信ノ使用ニ際シ遵守スベキ事項ヲ列舉シ、船舶遭難及  
船舶航行警報ニ依ル通信ニ關スル場合ノ外

一 無線電信ニ依ル公衆通信又ハ軍用通信ニ支障ナキトキ

二 船舶ニ施設シタルモノ、使用ハ航行中ナルトキ

三 實驗用無線電信ノ使用ハ他ノ無線電信ノ通信ニ支障ナキトキ

別ニ外國船舶ニ裝置スル無線電信ニ關シテハ、本法第二條ニ依リ施設シタルモノ、外之カ使用ヲ禁  
止シ、船舶遭難通信及航行中電信官署トノ通信ニ使用スル場合ニ限り之ヲ除外セリ(法第五條)

本法第五條ガ外國船舶ニ對シ船舶遭難通信ノ外特ニ航行中電信官署トノ通信ニ使用スル場合ヲ認ム  
ルハ、恰モ無線電信ニ依ル一般電報ノ託送ヲ許セルト同主旨ニシテ之ガ爲國家ノ專掌權ヲ侵害スルノ  
虞ナキニ依ル。

茲ニ注意スベキハ、外國船舶ニ對シテハ、國際法上一國ノ法權ハ領海外ニ及バザルヲ原則トスルコ  
トナリ。

領海ニ關シテハ、學說一定セズト雖モ普通海ニアリテハ陸地ノ最低干潮ノ所ヨリ海面ニ向ツテ三海  
里ヲ以テ掣トシ、灣ヲ成セル場所ニ付テハ、其ノ最モ短キ所ガ兩岸ヨリ一直線ヲ以テ連絡シ其ノ線ガ  
十海里ナル以內ヲ領海トスルヲ以テ定説トス。領空ニ就テハ國際法上定則ナシ只學說トシテハ

一 空中獨占說

二 空中自由說

三、空中分界說

アルニ過ギズ。

又外國船舶ト云ヒテ、軍艦ヲ含マザルハ軍艦ハ國際法上治外法權ヲ有シ各國ノ統治權ノ下ニ服從セ  
ザル權利アルヲ以テ之ヲ除外セルモノト解スベシ。

治外法權ヲ享有スル人及物

イ、國家ノ行爲及國有財産

ロ、國家ノ元首、其ノ家族從者

ハ、外交官、其ノ家族從者

ニ、軍艦

ホ、軍隊

故ニ本條ニ外國船舶ノ使用ヲ制限セルハ法權ノ及ブ本邦領海内ト解スベキモノトス。

### 第三章 無線電信通信従事者ノ法規上ノ責務

無線電信施設ノ目的ハ種々アリト雖モ其ノ最大目的ハ、海上生命財産ノ保全ニアリトス。故ニ船舶  
遭難等ノ場合ニ於テ國家ハ無線電信従事者ノ責務ヲ規定シ之ガ保全ニ關シ連絡共助其ノ他ノ措置ニ付  
遺憾ナカラシムルハ各國ノ法規皆其ノ軌ヲ一ニセリ

本法ニ於テハ第十一條ニ於テ「私設ノ無線電信無線電話又ハ外國船舶ニ施設シタル無線電信無線電  
話ハ船舶遭難通信ノ取扱ノ依頼ヲ受ケタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ」ト規定シ更ニ第十二條ニ於テ  
船舶遭難通信アリタル場合ニ於ケル取扱措置方法ヲ規定セリ。而シテ第十一條ニ於テ單ニ私設無線電  
信無線電話又ハ外國船舶云々トシ官設無線電信無線電話ニ及バザルハ、官設ニ在リテハ其職責上當然  
ノコトニ屬シ別ニ規定ニ明示スルヲ必要トセザルニ外ナラズ











電報規則

第三條 局報トハ電信、無線電信ノ事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲイフ。  
前項ノ外電信、電話、無線電信、無線電話、郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互ヲ往復スル電報ハ通信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り局報トナスコトヲ得  
第四十三條 第三條ニ規定セラレタル局報ハ無料トス 但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラズ

二、無線電報ニ關スル既納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還

附セス (電信法第十) (八條準用)

既納又ハ假納ノ料金ヲ一々還附スルガ如キハ、取扱上極メテ煩雜ニ流ル、ヲ以テ命令ノ定ムルトコロノ外之ヲ還附セストセリ。命令ノ定ムルトコロノ除外例トハ無線電報規則第十三條ニシテ  
一、無線電信ニ依ル傳送ヲナサザリシトキハ之ニ對スル料金  
二、線上傳送ヲナサザリシトキハ之ニ對スル料金  
ニ限リ之ヲ還附ストセリ。

三、發信人ニ於テ前納スヘキ無線電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ發信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ヲ徵收ス (電信法第十) (九條準用)

電信又ハ無線電信ニ關スル料金ニ付テハ電報規則第四十五條ヲ以テ「電信ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニアラス」ト規定セリ。故ニ受付ノ際貼付シタル郵便切手ニ不足ヲ發見シタルトキハ不足額ヲ追貼セシムルハ勿論ナルモ若シ其ノ手續ヲナサシメ難キ場合ニ於テハ之ヲ如何ニスルヤ該電報ハ其ノ傳送ヲ停止スベキヤ是レ

本條ノ規定ヲ要スル所以ナリ。

即チ本條カ此ノ場合ニ於テハ假令不足アルモ之ヲ傳送シ然ル後其ノ不足額ノ二倍ヲ發信人ヨリ徵收スルコト、セルハ發信人ノ意志ヲ貫徹セシムル精神ニ外ナラス。

四、無線電信ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六ヶ月以内ニ

納付ノ告知ヲ受ケサルニヨリ消滅ス (電信法第二) (十條準用)

本條ハ無線電信ニ關スル料金納付義務ノ消滅時効ヲ規定セルモノナルカ會計法第十九條ニハ滿五ヶ年ヲ以テ一般ニ政府ニ納ムヘキ義務ヲ免ルトシ、民法ハ一般ニ債權ノ消滅ヲ以テ十年ノ經過ヲ要ストセリ。本法カ特ニ六ヶ月トセルハ、畢竟處理ノ敏捷ヲ期ス主旨ニ外ナラス

五、無線電信ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス (電信法第二) (十一條準用)

國稅トハ地租又ハ所得稅ヲ云フモノニシテ市町村ノ公課ヲ含マス。無線電信ニ關スル料金徵收ヲ確實ナラシムル主旨ニシテ徵收ニ關シ國稅ニ次キ他ノ權利者ニ先チ徵收スルコトヲ得トセリ。

六、無線電信ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以

テ納付スヘシ (電信法第二) (十三條準用)

本條ハ電信、無線電信ニ關スル料金納付方法ヲ定メタルモノトス。凡ソ此ノ種ノ料金納付方法ニ



郵便切手徴收主義ト現金徴收主義ノニアリ。本法ハ原則トシテ郵便切手徴收主義ヲ採用シ例外トシテ現金徴收主義ヲ併用セルハ、主トシテ取扱ノ簡便ト處務ノ敏活ヲ期シタルモノトス。

### 七、無線電信ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス(電信法第二十四條準用)

無線電信ニ關スル取扱ヨリ生スル直接間接ノ損害ヲ一々賠償スルトセハ、國家ハ之カ爲莫大ナル金額ヲ要スルノミナラス之カ決定ハ容易ナラス、且ツ取扱者ノ責任モ亦過重ニ失スルヲ免レズ。故ニ國家ハ之カ取扱ニ付テハ賠償ノ責ニ任セサルコトヲ定ムル所以ナリ。之レ獨リ本邦ノミナラス外國ニ於テモ殆ント此ノ主義ヲ採用セリ。然レ共取扱吏員ハ官吏服務規律其ノ他ノ規定ニヨリ國家ニ對充分ノ責任ヲ負フモノナレハ、右ノ如クスルモ之カ爲濫リニ其ノ取扱ヲ疎漏ニスルノ虞ナキナリ。

## 第五章 無線電信ニ關スル犯罪及刑罰(第十六條乃至第二十七條)

凡ソ犯罪及刑罰ニ關スル事項ハ可成之ヲ刑法ニ於テ規定スルヲ要ス然レ共刑法ハ一般事項ニ亘リ汎テ之ヲ定ムベキモノナレバ到底事情ヲ異ニスル凡テノ事項ニ就テ詳細規定スルコトヲ得ス故ニ特別ノ事項ニ關シ各々特別ノ規定ヲ以テ之ヲ補フヲ例トス  
特ニ無線電信ノ如キ特別性質ヲ有スル事項ニ付テ一々之ヲ規定スルカ如キハ却テ本末ヲ顛倒シ一般ノ刑罰權ノ規定ヲ完フスルコト能ハサルニ至ルヘシ之レ本法カ又第十六條乃至第二十七條ヲ以テ特ニ無線電信ニ關スル犯罪刑罰ヲ規定セル所以ナリトス茲ニ注意スヘキコトハ刑罰ニ關スル普通法ニシテ本法第十六條乃至第二十七條ハ特ニ無線電信ニ關スル犯罪行為アルトキハ先ツ「特別法ハ普通法ニ優ル」ノ原則ニ依リ特別法タル本法ノ規定ヲ適用シ而シテ尙本法ノ規定ナキ場合ニ於テハ普通法タル刑法ヲ

適用スベキコト是レナリ今之ガ刑罰規定ニ就キ條ヲ逐フテ之ヲ細說セムトス

### 一、不法施設ノ罪

#### 第十六條

許可ナクシテ無線電信無線電話ヲ施設若シクハ許可ナクシテ施設シタル無線電信無線電話ヲ使用シタル者又ハ許可ヲ取消サレタル私設ノ無線電信無線電話ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ徴役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ凡テ無線電信不法施設ノ罪ヲ規定シタルモノニシテ左ノ三項ニ分說スルヲ便トス  
一、許可ナクシテ施設シ若クハ施設シタル者ノ罪

茲ニ「許可ナクシテ施設シ若クハ施設シタル」トハ本條第二條各號ニ該當スルモノニシテ私設無線電信規則第六條ノ規定ニ依リ逡信大臣ノ許可ヲ受クルヲ要スヘキ場合ニ於テ其ノ許可ヲ經スシテ施設シタルモノ及本法第二條列記以外ノ無線電信ヲ施設シタル者ヲ謂フ

無線電信ヲ施設スルノ行為ハ直ニ國家專掌權ノ侵害ナリト云フヲ得ス。何トナレバ唯其ノ施設ヲ爲シタルノミニテ之ヲ使用セザルハ未ダ以テ國家專掌權ノ侵害ナリト認ムベカラサレバナリ然レ共多クノ場合ニ於テハ果シテ使用セルヤ否ヤハ之ヲ知ルニ困難ナルヲ以テ不法施設ノ使用者ハ、勿論施設ノ行為ニ對シテモ等シク制裁ヲ附シテ國家專掌權ノ侵害ヲ防護スルノ要アルニ依ル。然シテ如何ナル状態ニ於テ「無線電信ヲ施設シ」ト云フヲ得ヘキカト云フニ該設備カ通信ヲナシ得ル状態ヲ備ヘタルトキト解スルヲ至當トス

#### 二、許可ヲ取消サレタル私設無線電信ノ使用スルノ罪

私設電信又ハ無線電話ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢止シタルトキハ本法第十條ニ依リ主務大臣ノ命スル期間(十日以内トス私設規則第十一條參照)内ニ機器、工作物ヲ撤去スルヲ要ス然ルニ之ヲ撤去セザルモノハ勿論撤去ヲ命セラレタル私設ノ無線電信ヲ使用シタル者ニ對シテハ前項ノ許可ナクシテ施設シタルモノヲ使用シタル者ノ罪ト同等ノ制裁ヲ設ケタルハ主トシテ國家專掌權ノ侵害ニ對スルモノトス又本項ノ場合ニ



於テハ一般刑法ノ規定(第十九條)ニ依リ其機器工作物ハ當然沒收セラルルモノトス  
刑法第十九條 左ニ記載シタルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一、犯罪行為ヲ組成シタルモノ
  - 二、犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタルモノ
  - 三、犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ヲ因ニ得タルモノ
- 三、不法施設ノ無線電信ヲ他人ノ用ニ供スルノ罪
- 一、二項ノ場合ニ於テ不法施設ノ無線電信ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタル時ハ其ノ金錢ニ相當スル金額又ハ其物品又ハ物品ノ代價ヲ追徴セラルルモノトス而シテ之カ沒收ハ即チ刑法第十九條第一項第三項ニ屬スル物件ナリト云フヲ得ヘシ

### 二、目的外使用ノ罪

第十七條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ其ノ施設目的以外ニ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

私設ノ無線電信又ハ無線電話ニ依頼シ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
本條ハ私設無線電信ノ目的外使用ノ罪ヲ規定セルモノトス私設ノ無線電信ハ本法第四條但書ニヨリテ許サレタル以外ニ於テハ本法第二條各號ノ規定スル目的ヲ超越シテ使用スルコトヲ得ザルモノトス然ルニ之ヲ其ノ目的以外タル例ヘハ他人ノ用ニ供スルカ如キハ即チ法律違反ノ行爲ナリトス又他人カ之ニ依頼シテ通信ヲ爲スコトモ亦同ジク違法ノ行爲ナリト云ハザルベカラズ故ニ法律ハ私設ノ無線電信ノ目的外使用ニ對シ國家專掌權侵害ニ對スル防護上相當制裁ヲ加フルハ當然ナリトス又施設者カ目的外使用ニヨリ他人ノ用ニ供シタル場合ノ制裁(本條第二項)ノ主旨ニ關シテハ前項既ニ之ヲ説明セルヲ以テ省

略ス

### 三、使用制限侵犯ノ罪

第十八條 第五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本法ニ依ル無線電信無線電話ノ使用ノ制限停止、設備變更若ハ除却撤去ノ命令ニ從ハサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス無線電信無線電話ノ事務ニ從事スル者使用ノ制限又ハ停止ニ違反シテ使用シタルトキハ其ノ從事者ニ付亦同シ

本條ハ本法第五條及第七條乃至第十條ノ規定違反ニ對スル制裁規定トス今之ヲ分説セハ

- 一、外國船舶無線電信又ハ無線電話使用制限ヲ侵セル場合(第五條)
  - 二、私設無線電信無線電話又ハ外國船舶無線電信無線電話カ主務大臣ニ於テ公安保持其他取締上ノ事由ニ依リ命シタル制限(使用ノ制限停止)ニ從ハサル場合(第八條乃至第十條)
  - 三、私設ノ無線電信又ハ無線電話カ公衆通信上又ハ軍事上ノ必要ニ基キ主務大臣カ命シタル必要ノ設備變更ヲ爲サル、場合(第七條)
- ニ於テ加ヘラルベキ制裁ヲ規定セルモノトス是等ノ制裁ハ原則トシテ私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ當該施設者又ハ其ノ代理者ニ課セラル、モノナルモ本條カ尙通信従事者ニ對シテモ其ノ使用ノ制限又ハ停止ニ違反シテ使用シタル場合ニ對シテモ同様ノ制裁ヲ設ケタルハ其ノ取締ノ完全ヲ期スルノ主旨ニ出デタルモノトス

### 四、公用徵收拒絕ノ罪



第十九條 第六條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ無線電信無線電話ノ使用ヲ拒ミ又ハ第十四條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ船舶ノ使用ヲ拒ミ若ハ特殊ノ供給設備ヲ爲サル、モノハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ以テ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供シ(第六條)又ハ公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話施設ノ爲メ船舶ノ一部使用若ハ必要ノ場合ニ於テ之ニ特殊ノ供給又ハ設備ヲ命スルハ何レモ公益上ノ事由ニ基クモノナルヲ以テ之ヲ命セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒絶スルコトヲ得サルモノトス若シ之ニ對シテ何等ノ制裁ナキ時ハ私人ハ其ノ義務ノ負擔ヲ拒ムモノアルヘク從テ之カ爲メ延テ公益ヲ全フスルコト能ハサル結果之等ノ義務ノ負擔ヲ拒ムノ行爲アルモノニ對シ相當制裁ヲ設クルノ必要アル所以ナリトス但シ其ノ徵收ニ對シテハ損害ノ賠償使用料又ハ報酬支給ニ付請求權アルヲ以テ必シモ過酷ニ失セサルノミナラス公益増進ヲ目的トスル法律ノ執行上蓋シ止ムヲ得サルニ出テタルモノトス

本條中「正當ノ事由ナクシテ」トハ如何ナル場合ナルカハ事實ノ問題ニ屬スルモ例セハ

- 1、第一條第一項ノ場合ニ於テハ私設者ノ專用通信カ非常ニ輻濫シテ公衆通信ヲ取扱フ餘裕ナキトキ又ハ設備不完全ノ爲メ直ニ之ヲ公衆通信又ハ軍事通信ノ用ニ供スル能ハス假令強テ之ヲ取扱ハシムルモ到底其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルカ如キ
  - 2、第十四條第一項ノ場合ニ於テハ船舶狹隘ニシテ到底其ノ一部使用ノ要求ニ應シ得サルカ又ハ事實上特殊ノ供給設備ヲ爲スニ困難ナル状態ニアル場合ノ如キ
- ハ正當ノ事由アリト認ムヘキモノナリト認ム要スルニ事由ノ正當ナリヤ否ヤハ一ニ實際ノ場合ニ當リテ之ヲ判定セサルヘカラス

### 五、通信秘密侵害ノ罪

第二十條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ通信秘密ヲ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

信書ノ秘密ハ憲法第二十六條(日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク)ノ保障スル處ナリ故ニ權利行爲トシテハ之

カ秘密ヲ知得セントセハ必ス法律ノ明文ヲ俟タサルヘカラス

- 註、法律ニ定メタル權利行爲者
- 1、豫審判事檢察(豫審判事ノ事務ヲ行フ檢察)
  - 2、陸軍法務官海軍ノ主理
  - 3、司法警察官各其職務ヲ行フ者
  - 4、破産管理

從テ不法ニ通信ノ秘密ヲ侵ス者ニ對シ刑事上ノ制裁ヲ認ムルハ當然ナリトス而シテ無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ハ憲法ニ所謂信書ナルヤ否ヤハ多小ノ疑ナキニ非スト雖モ況ク通信秘密トシテ之カ侵害ニ對スル保障ノ要アリトス殊ニ無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ如キハ其ノ性質上郵便ノ文書以上ニ之カ秘密保護ノ要アルハ勿論ナリトス之本法カ之等通信ノ秘密侵犯ニ關スル制裁ヲ規定スル所以ナリ

(一)犯罪ノ主體 本條ノ單ニ通信ノ秘密ヲ侵シタル者ト規定シ獨リ通信ノ事務ニ從事スル者ト否トヲ



問ハサルナリ蓋シ電報ハ往々ニシテ取扱中ニ於テ其ノ事務ニ從事セサル者ノ手ニ移ル場合等アルヘキヲ以テ也例セハ權利行為者ノ披閱又ハ誤テ正當ナラサル受取人ニ交付セラル、場合ノ如キハ之ナリ故ニ本法ハ犯罪ノ主體ヲ汎ク一般人ニ及ホシタル所以ナリトス然レ共直接其ノ通信ニ從事スル者カ之等秘密ヲ漏泄(電信法ニハ單ニ前項ノ行為シタル者トアリ本法ニハ前項ノ秘密ヲ漏泄トセルハ無線電信又ハ無線電話ハ其ノ性質上他ノ通信ヲモ常ニ傍受シ得ル地位ニ在ルヲ以テ特ニ漏泄ノ文字ヲ加ヘタルモノト解スベシ)ルシタル場合ニ對シテハ其ノ以外ノ者ノ犯罪トハ其ノ間之カ制裁ニ輕重ナカルヘカラス本法第二項カ特ニ從事者ノ行為ニ對シ加重刑ヲ課シタル所以ナリトス

茲ニ無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者トハ官私設ヲ問ハス汎ク無線電信又ハ無線電話ノ公衆通信事務ニ從事スル者ヲモ包含スルモノトス

(二)犯罪ノ客體、電信又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信タルコトヲ要ス

茲ニ電信又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信トハ無線電報ニ對シテハ受信後正當受信人へ交付マテハ勿論電報原書ノ保管期間中(五ヶ月)ヲモ包含シ無線電話ニ對シテハ交換局ノ交換ヲ經テ通知ヲ終了

スルトキ(交換局ヲ介セサル例ハ船舶局間相)マテヲ包含スルモノト解スヘキモノトス

秘密侵害罪ノ成立ハ被害者ノ意志ニ依ル無線電信又ハ無線電話ノ秘密侵害ハ被害者ヨリ告訴ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ成立セス之レ蓋シ本罪ハ發受信人ノ利益ト名譽ヲ保護シ又ハ社會ノ公安ヲ保タントスル趣旨ナルヲ以テ被害者ニ於テ別ニ告訴スルヲ却テ不利トスル場合ニモ國家カ強テ有罪トスルノ必要ナケレバナリ是レ即チ本罪ヲ名譽ニ關スル犯罪等ト同シク親告罪トセル所以ナリトス

### 六、料金減脫ノ罪

第二十一條 不法ニ無線電信無線電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ

二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行為ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ハ無線電信又ハ無線電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ免レシメタル者ニ對スル制裁ヲ規定セルモノトス茲ニ不法ニトハ例ヘハ公衆通信ノ用ニ供シタル船舶私設電信等ニ依リ通信從事者又ハ船員乗客ノ私信ヲ號外トシテ取扱ヒ公衆電報料ヲ徵セサルカ如キ又ハ無料トシテ取扱フコト能ハザル事項ヲ局報トシテ發送スルカ如キ其他正當ナラザル方法ニ依リテ故意ニ規定ニ反シ料金ヲ免レントスル不正行為ヲ謂フ但シ受付吏員カ誤テ少額ヲ納付セシメ發信人モ亦無意識ニ不足料金ヲ納入シタル場合ノ如キハ茲ニ云フ處ノ料金減脫ノ罪ニ包含セサルモノトス

茲ニ特ニ注意スヘキハ本罪ハ勿論本法第十六條乃至第二十五條ノ制裁ハ第二十六條ニ依リ凡テ未遂行為ニ對シテモ亦既遂行為ト同一ノ制裁ヲ加ヘラル、コトナリ但シ未遂罪處罰ニ關シテハ後ノ説明ニ讓ル

次ニ本罪ハ前條同様無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者ノ行為ニ對シ加重刑ヲ定ム

### 七、虛偽通信ノ罪

第二十三條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虛偽ノ通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

公益ヲ害スル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニヨリ虛偽ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス



船舶遭難ノ事實ナキニ拘ラス無線電信又ハ無線電話ニ依リ船舶遭難通信ヲ發シタル者ハ三ヶ月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者第一項ノ行為ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金、第二項ノ行為ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役、第三項ノ行為ヲ爲シタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

本條ハ虛偽通信ノ目的其他ニ依リ三種ニ區別シ各場合ニ應シ其ノ刑量ニ等差ヲ定ム

1、目的カ他人ニ損害ヲ與ヘントスルニ在ルトキ(第一項)

2、目的カ公益ヲ害セントスルニ在ルトキ(第二項)

3、目的ノ有無ニ拘ハラズ船舶遭難ノ事實ナキニ不拘船舶遭難通信ヲ發シタルトキ(第三項)

ヲ以テ本罪成立ノ要件トス

故ニ一、二項ノ場合ハ無意識ニ虛偽ノ通信ヲ發シタル者ニ對シテハ本罪ヲ成立セサルモ三項ノ罪ハ意識ノ有無ニ拘ラズ成立スルモノト解セサルヘカラス

茲ニ虛偽ノ通信トハ電信ニ在リテハ電報ノ偽造ナリトス偽造ハ之ヲ有形ノ偽造ト無形ノ偽造トニ分ツコトヲ得ヘシ例セハ他人ノ名義ヲ以テ電報ヲ作製シタル如キハ前者ニ屬シ自己ノ名義ヲ以テ作成シタル電報ノ内容ヲ偽ル者ノ如キハ後者ニ屬ス又第一項ノ「損害」トハ金錢ヲ以テ見積得ヘキモノナラサルヘカラス徒ニ喜怒哀樂セシムルカ如キハ本罪ヲ成立セサルモノト解スルヲ穩當トスヘシ

「公益ヲ害スル」トハ其ノ損害カ單ニ私人ノ損害ニ止ラス其ノ損害ヲ蒙ル範圍廣汎ニシテ汎ク公共ノ利益ヲ害シ危害ノ程度一層甚大ナル場合ヲ謂フ

虛偽ノ船舶遭難通信ノ如キモ其ノ通信距離内航行ノ船舶ハ勿論延テ海運業者ニ直接間接種々ナル損害ヲ與フル場合アルヘク之ニ對シ國家カ相當制裁ヲ加フルハ當然ナリトス

本條モ又通信従事者ノ前叙各項ニ依ル行為ニ對シ夫々加重刑ヲ定ム

### 八、電報ノ開披隱匿等ノ罪

第二十三條 無線電信ノ事務ニ從事スル者電信官署ノ取扱中ニ係ル無線電信ニ依ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披毀損隱匿若ハ放棄シタルトキ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

註「開披」トハ封緘ヲ除却スルノ意ニシテ、「毀損」トハ其ノ全部又ハ一部ノ効用ヲ失ハハムル一切ノ行為ナリ必ズシモ物質的毀損ヲ要セス抹消モ毀損タルコトヲ得ベシ「放棄」トハ其ノ所持ヲ離脱スルノ意ナリ

本罪ノ成立ハ

1、電信官署ノ取扱中ニ係ル無線電報タルコト

2、其ノ電報ノ開披、毀損、隱匿、放棄又ハ不正交付カ正當ノ事由ナキ場合タルコトヲ要ス

茲ニ正當ノ事由トハ權利行為者ハ勿論天災地變等ノ不可抗力ノ場合ヲモ包含スヘキモノト解スヘシ電報ノ開披毀損罪ト通信秘密侵害罪トハ如何ナル關係ニアリヤト云フニ電文其ノ他ニ關シ本人ノ意志ニ反シテ之ヲ認知漏洩スル所爲アリ且ツ被害者ノ告訴アリテ初メテ秘密侵害罪ヲ成立スルモノナルモ本條ノ開披毀損ハ必ズモシ本人ノ意志ニ反スルト否トヲ問ハス單ニ開披毀損スルノ事實アルヲ以テ定ムルモノトス

本條ニ罪ニシテ刑法第二五八條又ハ第二五九條ニ該當スルモノハ該刑法ニ依ル

茲ニ附言スヘキハ信書ノ開披罪ハ刑法第一三三條ニ又信書ノ隱匿罪ハ同第二六三條ニ於テ一般ノ場合ヲ規定セルヲ以テ電信官署ノ取扱中ナラサル電報換言セハ電信官署ノ取扱完了後ノ電報ヲ開披又ハ隱



匿罪ニ關シテハ一般刑法ノ適用ヲ受クヘキモノトス

- 刑法第一三三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 同 第二五八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
- 同 第二五九條 權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
- 同 第二六三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 同 第二六四條 第二五九條第二六一條及前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

### 九、取扱拒絶及遅延罪

**第二十四條** 無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲サル、トキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス無線電信無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依ル船舶遭難通信ノ取扱ヲ爲サル、ルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ハ國家ノ經營スル公共的事業ナリ而シテ公衆ハ法令ノ範圍内ニ於テ何時タリ共自由ニ之ヲ利用スルヲ得ヘシ然ルニ若シ其ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ濫リニ其取扱ヲ拒ミ又ハ故意ニ之ヲ遅延セシムルカ如キ不正行爲アルトキハ之ニ對シテ法律モ嚴刑ヲ加フヘキハ當然ノコトナリトス本罪ノ主體ハ無線電信又ハ無線電話ニ從事スル者ニ限ル故ニ其ノ以外ノ一般人カ被罰者トナルコトナシ

本罪ノ成立ハ  
1、正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲サルコト

2、正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ遅延セシメタル場合ナルコトヲ要ス

從テ正當ノ事由アリタルトキハ其取扱ヲ爲サス又ハ遅延セシメタル場合ト雖モ犯罪トナラス。例ヘハ規定ニ違反シタル通信ニ對シ其ノ取扱ヲ爲サル如キ又ハ通信輻湊、線路障害若ハ規定ノ手續ニ基キ履行シタル等ノ爲メ假令電報ノ遅延ヲ生セシメタル場合アリト雖モ之等ハ正當ノ事由アルモノニシテ素ヨリ本條ノ範圍外タルベキモノトス但シ此場合従事員ノ過失ニ出テタル行爲ハ犯罪ヲ成立セス單ニ懲戒其ノ他ノ行政處分ニ依リ取締レハ足ル従事者カ本法第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依ル船舶遭難通信ニ對シテ前叙ノ不正行爲アルカ又ハ其ノ取扱ヲ妨害シタル者ニ對シテハ其ノ危害ヲ及ボス程度更ニ廣汎ナルヲ以テ本條第二項ハ之ニ對シ一層嚴刑ヲ加ヘタルハ當然ノコトナリトス

### 一〇、通信障碍ノ罪

**第二十五條** 無線電信無線電話ニ依ル公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ障碍シ又ハ之ヲ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ通信ノ障碍ニ關スル特別規定ニシテ汎ク通信ヲ障碍シ又ハ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタルモノニ對スル制裁ヲ定メタルモノトス茲ニ「障碍シ又ハ障碍スヘキ行爲」トハ濫リニ私設専用通信ヲ遂行シテ軍事通信又ハ公衆通信ニ支障ヲ來サシムルカ如キ或ハ關係機器ノ一部ニ作爲ヲ加ヘテ故障ヲ生セシメ公衆通信ノ交信ヲシテ不能ナラシムルカ如キヲ謂フ

無線電信又ハ無線電話ノ機器建造物ニ毀損ヲ加ヘタル者ニ對シテハ一般刑法ノ規定ニ依リ處罰セララルモノトス

刑法第二六〇條 他人ノ建造物又ハ船舶ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス 云々



### 一一、未遂罪

#### 第二十六條 前十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

未遂罪トハ犯罪ノ實行ニ着手シテ之ヲ遂ケサルヲ謂フ  
(犯罪カ既遂ニ至ラザル状態) 故ニ其成立ニ付テハ犯人ガ犯罪ノ實行ニ着手シタルコトヲ要シ而シテ之ヲ遂ケサルコトヲ要ス

刑法總則(第四十三條)ニ依レバ未遂罪ハ其ノ刑罰ヲ減輕又ハ免除スヘキモノトシ之ヲ罰スル場合ハ各之ガ本條ニ規定スルコト、セリ之レ本條ニ於テ本法第十六條乃至第二十五條ノ未遂罪ヲ罰スヘキ條項ヲ明定セル所以ナリトス

(註)未遂行為

- 1、中絶未遂 人ヲ殺サントシテ銃ヲ擬シタル際警官ノ爲ニ逮捕サレタルカ如キ場合ヲ云フ
- 2、終結未遂 殺意ヲ以テ既ニ發砲シタルモ彈丸命中セサルカ如キ場合ヲ云フ

### 一二、吏員ノ職務執行妨害等ノ罪

第二十七條 本法ニ基キテ爲ス當該吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ第十三條ノ規定ニ依ル検査ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

本條ハ本法ニ基キテ爲ス當該吏員ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ不法施設ノ場所ニ臨檢ノ際職務執行上必要ナル陳述ヲ爲サ、ル等ノ行為アル者ニ對スル制裁規定ナリトス

茲ニ「職務執行」トハ素ヨリ當該吏員カ適法ナル職務執行ナルコトヲ要ス故ニ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘキ規定アルニ不拘之ヲ携帯セサルカ又ハ其ノ權限ヲ超エテ違法ノ検査ヲ爲スカ如キ場合ヲ含マサルモノトス

當該吏員ノ職務執行ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ本法第八條ニ依リ當該吏員ノ爲シタル封印ヲ損壞シタルカ如キ場合ニ於テハ一般刑法(第九十五條)ノ適用(公務員ノ職務執行ヲ妨害スルノ罪)ヲ受クルモノトス

刑法第九五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルモノハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
刑法第九六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ヘノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効トラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 第六章 本法適用ノ範圍 (第二十八條)

第二十八條ニ依レバ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル無線電信ハ電信法第四條第五條第十一條乃至第二十一條二十三條第二十四條及第四十五條ノ規定ヲ準用ストセリ但シ無線電信ニ關スル特權又ハ制限等ハ専ラ政府ノ施設ニカ、ルモノニ付テ定メタルモノ也。然レ共私設無線電信ト雖モ公衆通信又ハ軍事通信ノ用ニ供スル場合ニ於テハ政府ノ施設ニカ、ルモノト同一ノ待遇ヲセザレバ其ノ用ヲ完フスルコトヲ得ス之レ第二十七條ニ依リ電信法ノ之ニ關スル特權及制限ヲ準用スル所以ナリ茲ニ準用トハ適用ニ對スル語ニシテ必要ナル變更ヲ以テ適用スル意味ナリトス以下本條ニ依ル電信法準用規定ノノ主ナルモノニ就キ簡單ナル説明ヲ試ムトス

- 一 一定ノ區域ヲ限り無線電信ニ依ル通信ヲ停止又ハ制限スルノ權(電信用事 四條準法)
- 二 無線電信ニ依ル通信ヲ停止スルノ權(電信法第五條 準用)



公安良俗ヲ維持スル爲無線電信ニ依ル通信ニ對シ國家ガ必要ノ制限ヲ加ヘ得ルコトヲ定メタルモノニシテ本條ノ精神ニ關シテハ第一章第二節中ニ既述セルヲ以テ省略ス

### 三 無線電信専用ノ物件又ハ現用ノ物件ノ差押禁止及賦課免除權(電信法第十條準用)

之レ専ラ無線通信ヲ圓滑ナラシメ且ツ之ヲ確保スルノ主旨ニ出テタルニ外ナラズ茲ニ専用物件トハ其ノ物件ノ性質上無線電信ニ限リ用キラルルモノニシテ敢テ他ノ用ニ供スヘカラザルモノヲ云フ然レドモ性質上無線電信ノ専用ニ供セラルヘキモノタリト雖商品トシテ商人ノ手ニ存スル無線電信ノ機器ノ如キハ未タ之ヲ専用ニ供スルノ主旨ナクシテ單ニ營業ノ目的トシテ存スル場合ニハ本條ノ所謂専用ノ物件ニアラス現ニ其ノ用ニ供スル物件トハ現實ニ無線電信ノ用ニ供シツ、アル處ノ物件ヲ意味スルモノニシテ必シモ性質上ノ専用物件タルト否トヲ問ハザルナリ

### 四 無線電信官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ト看做ス(電信法第十條準用)

之レ無線電信官署取扱上ノ權限ヲ規定シタルモノナリ無線電信ノ取扱ハ甚シク複雑ニシテ且ツ極メテ迅速ヲ要スルモノナレバ一々對手者ノ能力ヲ識別シテ然ル後之ヲ處理スルカ如キハ事業ノ性質上許サ、ル處ナレハ無線電信ノ取扱ニ關シ無線電信官署ニ對シ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ストセリ之レ一般無能力者ノ規定ニ關スル一ツノ特例ナリ(郵便法第十條民法四、九、十二、十四條參照)

〔參 考〕

看做ストハ反證ヲ認メサル意味ニシテ例ヘハ未成年者禁治產者等カ無線電信ノ賴信其ノ他料金等ニ

付一旦或行爲ヲ爲シタルトキハ其行爲ニ就テハ能力者ト同一ニ看做サレ假令無能者タル證據ヲ舉クルモノヲ取消スコトヲ得サルナリ

民法第四條 未成年者カ法律行爲ヲ爲スニハ法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

但シ單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行爲ハ此限ニ非ス前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

同 第九條 禁治產者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

同 第十二條 禁治產者カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ其ノ補佐人ノ同意ヲ得ルヲ要ス

此規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

同 第十四條 妻カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルヲ要ス

前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

其ノ他料金ニ關スル電信法第十七條乃至二十一條及第二十三條第二十四條準用ハ第四章ニ說明セルヲ以テ省略ス

### 五 帝國外國間ニ於ケル無線電信ニ關シ別ニ法令又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル處ニ依ル(電信法第四條十五條準用)

條約ハ條約トシテ一國ノ官廳又ハ臣民ニ對シテ遵守ノ効力ヲ有セズ故ニ假令無線電信ニ付我國ハ外國トノ間ニ條約アルモ別ニ法令ニ何等ノ規定ヲ設ケサル以上ハ官廳又ハ臣民ハ必スシモ之レニ據ルコトヲ要セズ特許モ亦同一ニシテ其ノ特許ヲ與ヘラレタルモノニ關シテハ勿論其ノ特許ノ條款ニ依ルノ効力アルモ必スシモ其ノ他ノモノニ對シテ特許ノ條款カ拘束アリトイフヲ得ズ之レ特ニ本條ノ明文ヲ要スル所以ナリ從テ無線電信條約令附屬業務規則等ハ本條ノ準用ニ依リ明文アル事項ハ各其ノ規定ニ準據セザルベカラザルナリ(電信法終り)



# 第二編 無線電報規則

## 總 說

無線電信ニ關シテハ前編章ニ於テ略ボ其大要ヲ講述セリト信ズ依テ本編ニ於テハ同法ノ規定又ハ同法ノ委任ニ依リ規定セラレタル無線電信規則ニ私設無線電信規則及ビ之等ノ諸法規ニ基キ無線電信及ビ無線電話ノ從事員ニ對シ其取扱方ヲ規定セル無線電信取扱規程等ニ關シ以下章ヲ逐フテ其概要ヲ説明セムトス

## 第一章 無線電報及無線電信官署ノ意義

無線電報トハ如何ナル電報ナリヤ規則第一條ハ之カ定義ヲ下シテ「無線電報トハ無線電信ニ依リ傳送スヘキ電報ヲ謂フ」トセリ然レトモ無線電信ニ依リ傳送セラル、電報ニシテ無線電報ナラサルモノアリ例ヘハ無線電信ニ依ル託送ノ場合ノ如シ即チ甲（電報託送ノ目的ヲ以テ施設セル私設無線電信）ヨリ乙（海岸局）ヲ經テ丙（陸上局）ヘ傳送セラル、電報ノ如キハ甲乙間假令無線電信ニ依リ傳送セラル、モ無線電報ニアラザルガ如シ故ニ本條ノ所謂「線無電信ニ依リ傳送スヘキ」トハ無線電信官署間ニ於テ無線電信ニ依リ傳送スル電報ナリト解セサルベカラズ（電報規則第七十七條參照）

無線電信官署ハ分ツテ海岸局ト船舶トニトス海岸局トハ無線電信機ヲ裝置スル陸上ノ通信官署ヲ謂ヒ船舶局トハ無線電信ヲ裝置スル船舶内ノ通信官署ヲ謂フ（第二條）故ニ無線電信取扱所モ亦無線法規上海岸局又ハ船舶局ニ包含セラルヘキハ勿論ナリトス

## 第二章 無線電報ノ發送

### 第一節 海岸局指定

#### 一、海岸局ノ指定方法

船舶局ニ着スル無線電報ニシテ海岸局ヲ經由スヘキモノハ發信人ヲシテ經由海岸局名ヲ記載セシムルヲ要ス其ノ方法ハ發信人ヲシテ電報ノ宛所中ニ該局名ヲ括弧ヲ以テ表示セシムルモノニシテ其ノ海岸局名ハ歐文電報ト雖語數ニ算入セザルモノトス（第四條第一項）是レ蓋シ無線電報ノ海岸局指定如何ハ該電報ノ遲速又ハ場合ニ依リ不達等ニ關係スルヲ以テ發信人ヲシテ之カ意志表示ヲ爲サシムルノ必要トセルニ外ナラス只此場合船舶局ハ陸上局ト異リ無線通信ノ實況、船舶位置、方向等ヲ容易ニ知リ得ルニ依リ船舶局受付ノ場合ニ限り發信人ノ表示スヘキ船舶中繼又ハ海岸局經由ノ要否ヲ確メタル上受付ヲ爲スヘキモノトス（規程二ノ二）之レ一面船舶局受付ノモノニ對シテハ後日料金還付其ノ他ノ事故ヲ生セシムルカ如キコトナカラシムル趣旨ナリトス

#### 二、海岸局指定ニ對スル取扱方

發信人ノ表示シタル海岸局名（發送ノ際省略スルモノトス）ハ着信局名（船舶局名）ノ下ニ附記スヘシ此場合ニ海岸局經由船舶局經由相互間ニ發着スルモノニ在リテハ之ヲ船舶局ニ傳送スヘキ海岸局名ヲ附記スルモノトス（規程第一條）



### 第二節 船舶中繼

確實通信距離外ニ去ラントスル船舶局ヨリ發信セル無線電報(程第二七ノ規三)ニ對シ陸上局ヨリ返信セントスルトキ又ハ船舶發着豫定其ノ他ノ事實ニ依リ發信ノ際着信船舶局ノ直接傳送ノ途ナキ場合ニ於テ中間ニ他ノ船舶介在シ其ノ中繼ニ依リ傳送セントスル無線電報「ナイ」ノ指定ノ外船舶中繼「ナク」ノ指定ヲ要ス(第四ノ二項)

此場合陸上局受付ノモノハ其ノ中繼ハ一回ニ限ル(四ノ二)然レ共船舶局受付ニ對シテハ中繼回数ニ何等ノ制限ナシ只船舶中繼回数ニ應シ相當料金ヲ徵收シ局内心得ヲ以テ「船舶中繼何回」ヲ添付スルモノトス(規程二ノ四)

### 第三節 無線電報ノ船舶局受付

- 一、發信人ノ居所氏名 船舶局受付ノ際ハ發信人ヲシテ特ニ其ノ居所氏名ヲ賴信紙ノ端末ニ明記セシムルヲ要ス(規程二條)之レ後日料金徵收其ノ他通知ヲ要スル場合等ノ必要ニ出テタルモノトス
  - 二、返信料全納金額指定 前納額(和文)共八十錢ノ場合ノ外凡テ「ナツ」ノ次ニ返信料前納金額ヲ數字ニテ附記スルモノトス(規程十條ノ三)之レ一般電報ニ在リテハ電報料金一定セルヲ以テ返信料全納ノ指定ハ和文一名宛十五字歐文五語ヲ超エテ前納スル時ニ限リ「ナツ」ノ次ニ單ニ字(語)數ヲ附記スル規定ナルモ無線電報ニ在リテハ之ト趣ヲ異ニシ船舶相互又ハ海岸局經由等ニ依リ同一字語數ト雖料金ニ差異アルニ依ル
- 但シ陸上相互間無線連絡ニ依リテ取扱フ場合ハ此限リニアラス(規程第十六條ノ二)

### 三、翌朝配達

船舶局發信無線電報ハ社交其他之ニ類似ノ不急通信多キヲ以テ之ヲ一般電報取扱ト同シク夜間ト雖着信ト同時ニ配達ニ附スル時ハ受信人ノ迷惑トスル場合ナキヲ保セス依テ發信人ノ請求アルトキハ翌朝配達ノ取扱ヲ爲シ得ルコト

### 四、貼付切手ノ消印

船舶受付ノモノハ送信完了ノ時ヲ以テ受付完了ト看做シ貼付切手ニ消印シ若シ發信ヲ了セザル時ハ返還料ヲ徵收セズ其儘發信人へ返還スルモノトス(規程四)之レ一般電報力受付ト同時ニ消印スルト異ナル處ニシテ船舶發信無線電報ノ性質上ニ基ク特殊取扱ノ一例ナリ(規程四) 例外 但シ左ノ場合ハ送信完了ノ場合ト雖完了ト看做シ消印スルモノトス

- 一、發信人上陸後等ノ爲返還シ得サルトキ
- 二、船舶局ニ於テ送信セシモ受信證ヲ受クルコトヲ得サルトキ

## 第三章 無線電報ノ料金

### 第一節 料 金

一、無線電報ハ海岸局又ハ船舶局ニ於テ無線電信ニ依ル取扱ヲ爲ス毎ニ所定ノ料金ヲ附加スルモノトス(規程第十一條第十二條第十三規程二ノ五參照)

但シ陸上局所發船舶局着無線電報ハ陸線料ヲモ併セテ納付スルヲ要ス船舶相互間發着ノ如ク無線電信ニノミ依リ傳送スルモノニ對シテハ陸線料ヲ要セサルハ勿論ナリトス規則第十六條ニテ第一條ノ料金ハ陸上相互間ニ發受スル電報ヲ無線電信ノ連絡ニ依リ取扱フ場合ニ準用スルモ遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムル時ハ其ノ料金ヲ特定スルコトアルベキヲ規定シ同條二項ハ之等ノ取扱及



別ニ告示スルコトヲ明示セリ

該規定ニ依リ現在特定料金及取扱方ヲ告示サレタルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

(一) 沖大東島(ラサ島)發受ノモノ

1. 特定料金

無線上ノ料金ニ海岸局料金ニケ分ニ有線料ニ内地海岸局ヲ經由シ内地(小笠原島ヲ除ク)トノ間ニ發受スルモノ富貴角ヲ經由シ臺灣トノ間ニ發受スルモノニ大連灣ヲ經由シ滿洲芝罘朝鮮トノ間ニ發受スルモノニ電報規則四十一條第三號(内地料)ニ内地海岸局經由小笠原島、樺太、臺灣、朝鮮、滿洲、若ハ芝罘トノ間ニ發受スルモノニ同上第二號(内地殖民地間料金)

2. 取扱方

内地發ラサ島宛經由海岸局ハ大瀨崎トス 呼出六〇〇  
ラサ島發内地宛經由海岸局ハ潮岬トス(三百條) 通信一、八〇〇

月給ハ一月三十四

(二) 南大東島發受ノモノ

1. 特定料金

無線上ノ料金ニ沖大東島(ラサ) 海岸局料金ニ南大東島間 金二箇分  
其他 三箇分

2. 取扱方

陸線上ノ料金(一)ニ同ジ  
内地發南大東島宛ノ經由海岸局ハ大瀨崎トス

(三) 内地臺灣間海底線不通ノ場合ハ其期間中取扱ノ和文至急官報

特定料金 無線上ノ料金 海岸局料金二箇分

(四) 幌筵島經由内地間發受ノモノ

特定料金 海岸局料金 金二箇分

經由海岸局 落石トス

二、遭難通信ニ關シ無線電信ノミニ依リ船舶ニ往復スル電報ハ局報トシ無料トス(規則第三條第三項同第四十三條)

又無線通信ニハ至急取扱ヲ爲サズ(規則第十條)

(三) 無線電報ニハ時間外取扱料ヲ課セス(規則第十二條)之レ無線通信ガ性質上主トシテ夜間ニ行ハルニ依ル

### 第二節 料金還附

無線電報ニ關スル左ノ料金ハ之ヲ還付ス但シ他ノ料金ニ充當シタルモノハ之ヲ控除スルモノトス(規則十三條)

一、無線電信ニ依ル傳送ヲ爲サバリシトキ其ノ部分ニ對スル料金  
二、線上傳送ヲ爲サバリシトキハ之ニ對スル料金

〔參考〕  
他ノ料金ニ充當ノ場合

陸上局發大瀨崎經由船舶宛無線カ大瀨崎ニテ傳送不能ノ爲メ臺灣ニ傳送(第四條第二項ニ依リ)セラレタル場合ハ全然無線電信ニ依リ傳送ヲ爲サバリシヲ以テ前記一ニ依リ海岸局船舶局料金五十錢還付ノ請求ヲ爲シ得ヘク又大瀨崎臺灣間陸上傳送ハ着局改正ノ例ニ依リ内地料ノ差額十錢不足スルヲ以テ五十錢ヨリ十錢不足ヲ控除シ四十錢還付スルカ如シ  
船舶ニ於テ受付タル無線電報ノ還附ハ何レノ電信局所ニ於テモ請求シ得ルモノトス(規則第十四條)而シテ之カ執行ハ通信局長ノ通牒ニ依リ請求ヲ受ケタル電信局所トス但シ必要アルトキハ通信局長ヲシテ通牒ヲ爲サシムルコトアリ



### 第四章 無線電報ノ特別取扱

#### 第一節 保管及保管期間

##### 一、保管期間指定

無線電報ノ通信ハ送受兩局カ確實通信圈内ニ入りタルトキ之ヲ行フ(規則第七條)モノナルヲ以テ無線電報ノ發信人ハ該電報ノ海岸局ニ於ケル保管スヘキ期間ヲ指定セムトスルトキハ其ノ保管日數ヲ指定事項トシテ記入セシムルヲ要ス前項ノ指示ナキ無線電報ハ發信ノ日ヨリ九日間海岸局ニ保管セラルルモノトス但シ船舶局カ既ニ通信距離外ニ去リタル等ノ爲傳送不能ナル場合ハ海岸局ニ於テ之カ保管ヲ爲サ、ルヲ原則トス(規則第五條)

同上海岸局ノ取扱方 原書ノ餘白ニ保管期間滿了ノ月日ヲ記入シ之カ船舶局別ニ區別整理シ置キ(規程第二九條)特ニ保管ノ要ナシト認ムル場合(規程二九ノ二)ヲ除キ保管期間滿了ノ前日午前十二時(民法規定ニ依ル)迄ニ送信不能ナルカ又ハ一旦送信スルモ受信證ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其旨局報ヲ以テ發信局ヘ通報シ發信局ハ書面ヲ以テ之ヲ發信人ニ通知スヘキモノトス(規程第三〇條)

〔參考〕

期間計算法ハ民法ノ規定ニ依ル(民第一四〇條期間ノ初日ハ之ヲ算入セス)何日ヨリ起算シトアルモノハ起算日ヲ特定シタルモノトス(四二、六東京局照會)通信局指令

##### 二、保管期間ノ延長

發信人ハ保管期間ノ延長ヲ請求シ得ルモノトス、其方法ハ該請求書ニ無線電報ノ發信月日、字語數

發受信人名ヲ記載シ之ヲ海岸局宛差出スモノトス但シ之等ノ請求ハ發信局所ヲ經テ請求スルモ妨ケサルモノトス此場合其ノ電報通知ヲ要スルトキハ相當電報料ヲ納付セシメ課金局報トシテ發送ス(規則第六條)

同上取扱方發信局ハ發信原書(無線電報發信簿)ニ對照ノ上其ノ旨ヲ課金局報ヲ以テ海岸局ヘ通報シ(規程第三二條)海岸局ハ一般課金ノ例ニ準シ處理ス(規程第三二條)

海岸局ニ於テ保管期間内ニ原書差立期日到来、又ハ未送若ハ受信證未了ノトキニ處スル取扱方ハ規定第三三條ニ明定セリ

##### 三、送達不能ニ對スル保管通知

1、陸上局(船舶局)ニ於テ配達又ハ交付不能ノ無線電報ニ對スル保管通知ハ適宜ノ方法ニ依リ發信局(船舶局)ハ可成受信ノ海岸局經由)ヘ發送スルヲ要ス(規程第三四條)

2、船舶局ニ於テ自局中繼ノ無線電報ノ未送又ハ受信證未了ニシテ送信ノ途ナシト認ムル時ハ局報又ハ適宜ノ方法ニ依リ其旨發信局ヘ通報シ發信局ハ發信人ヘ通知スルモノトス此場合船舶局ハ原書ノ餘白ニ「未送」又ハ「受信證未了」ト朱書シ保管滿了ノ翌日分原書末尾ニ編綴スヘシ(規程第三五條)

##### 第二節 同文電報ノ特殊取扱

無線電報ノ通信ハ其ノ取扱上兩分スルコトヲ得一ハ陸上局所間通信ニハ無線局間通信是レ也之ヲ以テ無線電報ノ同文取扱ハ次ノ場合ニ於テハ假令受信人居所カ一市區町村ヲ同フセス又ハ著信局所同一ナラサルトキト雖何レカ其ノ一方ノ取扱ニ限リ發信人ハ特ニ同文電報ノ取扱ヲ請求シ得ルモノトス此場合ニハ同文ノ略符合ノ代リニ「ラヨ」ノ指定事項ヲ記載スルモノトス(規則第十條ノ二)

1、無線局相互間ニ限リ同文電報ノ取扱ヲ爲スモノ

例 天洋丸ヨリ發シ銚子海岸局ヲ經由シ東京、大阪、横濱等ニ著スル同又電報ヲ天洋丸銚子海岸局



二、同文電報トシテ取扱フカ如シ

2、陸上局所相互間ニ限リ電報ノ取扱ヲ爲スモノ

例 東京ヨリ發シ落石海岸局經由諏訪丸鹿島丸等ノ各船舶局ニ著スル同文ノ電報ヲ東京落石間ニ同文電報トシテ取扱フカ如シ

但シ此場合ニケ以上ノ船舶局ニ著スルモノニ對シテハ海岸局間ノ轉送(規則第四條第二項)ハ全部カ同一海岸局經由傳送シ得ルカ又ハ同一陸上局所ヨリ配達シ得ル場合ニ限定セラル、モノトス

同上取扱方 特殊同文「ラヨ」ノ内著信局ヲ同フスル「ムヨ」ノ通數ヲ含ム場合ノ指定ハ「ラヨ」(總通數)及ムヨ(ムヨ通數)ヲ併用スルモノトス 例セハ例一ノ場合東京二、大阪橫濱各一通ナルトキハ

(同文ノ指定方法ニ付テハ電報規則第一四四條第四五條參照)「ラヨ」(四)「ムヨ」(一)ト記載スルカ如シ(海岸局ニ於テハ大阪橫濱ノ分ハナイラヨ四トシ東京ノ分ハナイラヨ四ムヨ一トシ傳送ス(此場合原信大阪トシ其他東京ムヨ二橫濱ナレハ原信ハ「ラヨ」四トシ東京トシ東京ノ分ハナイラヨ四ムヨ一トシ傳送ス(第一通ニ「ムヨ」ニテ併用スルモノトス(電報規則第一四四條及同第一四五條)ノ分參) 海岸局ニ於テ「ラヨ」ノ電報ヲ受信シタルトキハ各別ノモノトシテ送信シ此場合字語數訂正ノ要

アルトキハ自局著同文電報ノ例ニ準シ(有線規程第三二五條)所理スルモノトス(規程二七ノ二)

### 第三節 無線電報取扱上ノ制限事項

陸上局所間ニ於テノミ取扱ヒ無線通信上ニ於テ之カ取扱ヲ爲サ、ル事項左ノ如シ但シ陸上相互間無線電信ノ連絡ニ依テ取扱フ電報ハ此限ニアラス(規則第十六條ノ二參照即チラサ) (觀建等ハ有線電信局所ト同シ)

一、返信ヲ要スル尋問改正停止

發信人ハ無線電報ニ關シ返信ヲ要スルモノ、取扱ヒハ陸上局所間ニ限定規則(第九條)セラル、ヲ以テ從テ船舶局ニ對シテハ此種ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

同上取扱方 請求ヲ受ケタル陸上局ハ原信經由海岸局ニ對シ一般ノ例ニ依リ課金局報ヲ發シ海岸局ハ之ニ對シ自己ノ發著信ニ關スルモノト同様ノ處理ヲ爲スモノトス但シ自局ヨリ他ノ海岸局ヘ轉送後ナルトキハ該局報ハ更ニ轉送スルヲ要ス此場合料金不足ヲ生スルモノナルトキハ「不足料金徵收方發信局ヘ通報ヲ要ス」ノ局内心得ヲ添付スルモノトス(規程第三六條)海岸局又ハ中繼船舶局ニ於テ改正又ハ停止ニ關スル船舶局宛課金局報ヲ受信シタルトキ又前項處理ニ準シ取扱フモノトス此場合自局ニ限リ處理シ得タルトキハ其ノ事由ヲ關係原書餘白ニ記載シ且ツ書面又ハ適宜ノ方法ニ依リ其ノ旨發信局ニ通報スルヲ要ス(規則第三六ノ二)又轉送ヲ受ケタル海岸局ノ處理方ハ規程第三六ノ三條ニ依ル

二、至急再送及受信報知

無線電報ノ至急再報及受信報知ノ取扱ハ陸上局所相互間ニ限ル(規則第十條)而シテ受信報知電報ハ海岸局カ該電報ヲ傳送シタル日時ヲ發信人ニ通知スルモノトス無線通信上至急取扱ヲ認メサルハ尙無線電報ノ取扱時間ヲ無制限トセル規定ト同趣旨ニシテ其ノ通信上ノ性質カ優先取扱ノ途ナキニ依ル又再送受信報知ヲ陸上局所間ニ制限シタルハ一面ニ於テハ亦取扱上ノ簡捷ヲ期シタルモノト解スヘシ

## 第五章 無線電報ノ傳送

### 第一節 無線通信ノ種別

無線通信ノ種別ハ左ノ四種ニ區別スルコトヲ得以下之ヲ概説スヘシ

#### 一、船舶遭難通信 (關係規定)

法第十一條 第二十二條 三項四項 第十二條 第二四條 二項三項 規則第八條規程十四條 十五條 三十八條及電報規定第三條第三項並第四三條



## 二、氣象通信

### 一般氣象通信

定期氣象電報

艦船ヨリ中央氣象臺宛發送スル通信

臨時氣象電報

警報氣象通信 中央氣象臺ヨリ船舶宛發送スル通信、但シ各海岸局ヨリ放送スルヲ原則トス

右ノ外 銚子(午後九時五分)富貴角(午後八時三十分)大連灣(午後九時)各無線ヨリ英文警報ヲ波長六〇〇QSTヲ

回反復後之ヲ三回連續放送ス

### 三、報時通信

銚子及船橋無線局ニ於テ標準時ノ午後九時ヨリ(大正五、一二、九 告示一、一〇五號)一分毎ニ五回發送ス

其ノ方法ハ東京天文臺ヨリ陸線ノ連絡ニ依リ送信用繼電器ニ依リ自動的ニ發振スル装置ニ依ル電波長銚子六〇〇船橋四、〇〇〇トス

## 四、公衆通信 無線電報送受

### 第二節 呼出ノ方則

無線通信ノ傳送ハ左記各項ノ方則ニ準據スルヲ要ス

### 一、一般方則

#### 1、呼出

呼出ハ通信距離ノ四分ノ三ニ入りタルトキ(規程第七條)受信機ヲ最良ノ感度ニ調製シ他局ノ通信中ナラサルコトヲ確メタル後之ヲ行フコト(規程第八條)

#### (イ) 呼出方法

- 1、始信符號———ヲ送リ
  - 2、對手局名符號ヲ三回反覆シ
  - 3、次ニ局名前置符號———ヲ送リ
  - 4、自局名符號ヲ三回反覆スルコト
- 此の符號は呼出の開始を知らせるために用いられる。*

#### (ロ) 被呼局應答スルトキハ

- 1、始信符號
  - 2、呼出局名三回
  - 3、局名前置符號
  - 4、自局名符號
  - 5、可送符號
- 此の符號は呼出の開始を知らせるために用いられる。*

#### (ハ) 被呼局無應答ノトキハ

呼出方法ヲ更ニ二分間ノ間隔ヲ以テ順次三回反覆スルコト三回反覆スルモ尙無應答ナルトキハ十五分間ヲ經タル後更ニ同一方法ニ依リ呼出ヲ爲テコト(規程第一〇條)

### 2、萬國信號ニ依ル通信

對手局ト萬國信號ヲ以テ通信セントスルトキハ呼出ニ引續キ萬國信號(P R B)ヲ送ルコト(規程第一一條)

### 3、出入圖通知

確實通信距離内ニ出入ノ際ハ左記事項ヲ海岸局ヘ通知スルコト此場合通信上必要アリト認ムルトキハ無線電報ノ通數及字語數



例、ワ<sup>五</sup>（和文三通）<sup>オ</sup>（英文二通）ヲ相互ニ通知スルコト（規程第一二條）

例、ワ<sup>五</sup>（和文三通）<sup>オ</sup>（英文二通）<sup>イ</sup>（十四語）ヲ相互ニ通知スルコト（規程第一二條）

- 1、海岸局ヨリノ概略方法
- 2、距離
- 3、進行方位
- 4、無線局探呼

在圈内ノ海岸局名又ハ船舶局名ヲ知ラントスルトキ等ニ於テハ探呼符號（CQ）ヲ用ヒ一般呼出方法ニ準シ呼出ヲ爲スコト（規程第一三條）

## 二、特別方則

### （一）船舶遭難通信

海岸局又ハ船舶局ニ於テ船舶遭難通信ヲ傳送セントスルトキハ左ノ方則ニ遵フヲ要ス（規程第一四條）

- 1、船遭危急符號：———（短少ナル間隔ヲ以テ數回反覆スルヲ要ス）
  - 2、對手局各符號（對手局ヲ指定スル場合ニ限ル）
  - 3、遭難船舶名、位置狀況其ノ他救助ニ必要ナル事項
- 海岸局又ハ船舶局ニ於テ船舶危急符號ヲ認識スルトキハ左記ニ準シ直ニ之カ通信ヲ開始スルヲ要ス（無線法第十一條十二條規程十五條規程第三八條）
- 1、總テ通信ヲ中止スルコト
  - 2、直ニ應答スルコト（指定局アルトキハ其ノ應答ナキトキニ限ル）
  - 3、遭難船舶名、位置、狀況其ノ他救助上必要事項ヲ左記ニ依リ通報スルコト

### （イ）船舶局ニ於テ認識シタル場合

- A、船長ニ通報スルコト
  - B、救助上最便宜ノ位置ニ在ル他ノ無線電信（海岸局又ハ船舶局）ヘ通報スルコト
  - C、措置狀況ヲ通信局長及所轄通信局ニ局報々告スルコト
- （ロ）海岸局ニ於テ認識シタル場合
- A、救助上最便宜ノ位置ニ在ル鎮守府要港部地方廳帝國水難救濟會ノ救助所等ニ通報スルコト（其ノ通報カ無線電信ニ依リ難キ場合ハ至急官報トスルコト）
  - B、措置狀況ヲ通信局長及所轄通信局長ヘ局報々告スルコト

### （ニ）航行警報

船舶局又ハ海岸局ニ於テ航行上ノ危険警戒ニ必要ナル事項ヲ各船舶局ニ通報セントスルトキハ左ノ方則ニ據ルヲ要ス（規程第三八ノ三）

#### A、發振局

- 1、航行警報符號（———）ヲ短少ナル距離ヲ以テ十回反覆スルコト
  - 2、必要ナル事項ヲ傳送スルコト
  - 3、十分間ノ間隔ヲ以テ更ニ三回反覆スルコト
- B、認識局
- 1、一切ノ通信ヲ中止スルコト
  - 2、必要ナル事項ヲ船長ニ報告スルコト

## 第三節 無線電信ノ順位



無線電信ハ有線通信ト異リ其ノ電報ノ通達スル空界ヲ通シテ一切ニ影響スルヲ以テ無線通信ノ順位ハ嚴格ニ確保セラル、ヲ要ス而シテ其ノ通信順位ニ關シテハ絕對的ナルモノト相對的ナルモノトニ區別スルヲ得ヘシ船舶遭難通信ノ如キハ前者ニ屬シ其ノ他ノ通信ノ如キハ主トシテ後者ニ屬ス今其ノ法規上之カ順位ニ關スル規定ヲ概説セハ左ノ如シ

### 一、絕對的先順位

#### (一) 船舶遭難通信

其ノ何レヨリ發スルヲ問ハス絕對的先順位ニ於テ之ヲ受理シ同様其ノ呼出ニ應答シ且ツ必要ナル處理ヲ爲スヲ要ス(國際無線電信條約第九條無線電報規則第八條參照電報規則第七十九條ノ二、第二項)

#### (二) 航行警報

(一)又ハ(二)ノ通信ヲ認識シタルトキハ一切ノ通信ヲ中止シ必要ノ措置ヲ執ルヲ要ス

### 二、相對的順位

報時通信又ハ暴風警報通信時間中ハ船舶遭難等絕對危急通信以外之カ交信ヲ避クルハ勿論ナルモ其ノ他一般船舶通信ハ海軍艦船トノ交信以外左ノ順位ニ依リ定ムル海岸局ノ指示スル處ニ遵フヲ要ス(規定第一七條)

- 一、入港前一旦通信ノ機會ヲ失スレハ再ヒ交信シ得サルカ如キ入港時切迫ノ通信
- 二、一旦通信ノ機會ヲ失スレハ再ヒ交信シ得サルカ如キ特ニ確實通信圈外ニ去ラントスル通信
- 三、比較的通信上近距離ニ在ル通信
- 四、比較的通信上遠距離ニ在ル通信只逕信省所屬無線電信局所ト海軍艦船トノ公衆通信ハ左記順

位ニ依ル(海軍電報取扱規則第二十五條參照)

- 一、軍事官報
- 二、官報
- 三、公衆電報
- 四、試驗通信

### 第四節 無線電報ノ混信防止

近來無線電信ノ増加ニ伴ヒ混信從テ増加シ無線電信成績ニ影響スルコト尠カラサルニ至レリ之カ混信妨遏ニ對シテハ各局相警メテ互ニ交信ノ節制用語ノ節約等ヲ確守スルヲ要ス今混信妨遏ニ關スル現行施設及注意スヘキ事項ヲ摘舉スレハ左ノ如シ

#### 一、夜間海岸局ニ使用スル特殊電波長

混信妨遏ノ爲七年五月以來夜間各海岸局ハ左ノ區別ニ依リ(外國船舶間ノ)特殊電波長ヲ使用(呼出應答及交信ヲ除ク)ス但シ船舶局ハ海岸局ノ送信電波長ニ拘ラス六〇〇米突ノ送信波長ヲ使用スルヲ原則トス(電報送受共)

落石	每偶數時間	一、八〇〇
銚子	每奇數時間	四〇〇
潮崎	偶	三〇〇
下津井	奇	五〇〇
角島	偶	四〇〇
大瀬崎	奇	一、八〇〇



本通海

奇西部  
標順時

四五〇

- 二、呼出及同符號ノ反覆回数ハ必ス規定(規則第八條乃至十條)ヲ勵行スルコト
- 三、電報送受上ノ反覆ハ規定(規則第二十六條)ノ回数以上ニ亘ラサルコト  
強テ通信困難ナル遠距離通信ヲ試ミ往々反覆ヲ重ヌルカ如キコトナキヲ要ス
- 四、規定ノ聴取時間ヲ勵行スルコト  
毎時初十分間ノ聴取ヲ勵行シ通信連絡上遺憾ナキヲ期スルヲ要ス
- 五、交信上ノ用語ハ簡約ニスルコト  
規定ノ符號又ハ略號ハ必ス之ヲ使用シ冗長ナル普通語ハ絕對ニ使用セサルヲ要ス
- 六、相互ニ通信上ノ節制ヲ重ンスルコト  
通信奪取其ノ他他局ト濫リニ各種ノ交渉ヲ滋カラシムルカ如キコトヲ絕對ニ避クルヲ要ス
- 七、報時通信時間中發振セサルコト

第五節 傳送ノ手續ト取扱方

一、發局ノ送受時刻

總テ船舶時ニ依ルヲ(規程第三八ノ四)以テ無線電報ノ送受時刻モ從テ船舶時ニ依ルヲ要ス執務限定ノ時間モ亦船舶時ニ依ルヘキモノナルヲ以テ對手無線電信トノ通信連絡上時差ヲ測定シ場合ニ依リ必要ノ協定ヲ爲シ置クヘシ

二、送受局名ヲ表示

有線通信ハ凡テ一定ノ回線ヲ經過シ同一回線ニ直ニ發著スルハ勿論數個ノ回線ヲ經過スル者ト雖發著局間ノ通信経路ハ定マリタル中繼順路ニ依ルモノナルモ無線通信ハ其ノ性質上空界ノ狀態距離其ノ他ニ依リテ經由スヘキ海岸局又ハ船舶局ノ如キハ豫メ一定スルヲ得サルヲ以テ(規程第十條)無線電報ノ料金照査等ノ必要ニ依リ送受ノ際必ス其局名ヲ相互ニ表示スルヲ要ス今之ニ關スル規定ヲ擧クレハ左ノ如シ

(一) 海岸局

(イ) 船舶局ヨリ受信シタルトキハ發信局名ノ下ニ自局名ヲ附記スルコト(規程第二一條)

(ロ) 中繼船舶局ヘ送信シタルトキハ當該原書ノ餘白ニ「送信先何局」ト記入スルコト(規程二〇)

(ハ) 「ナラ」ノ電報ヲ直接著信船舶局ヘ直送シ得タルトキハ原書ニ「船舶中繼不要」ト記載スルコト  
ト此場合ニ於テハ其旨發信局所ヘ通報(發信局又ハ發信人ヘ其旨通知)スルコト(規程第二七ノ四)

(二) 船舶局

(イ) 海岸局ヨリ受信シタルトキハ發信局所名ノ下ニ送信(海岸局名)局名ヲ附記スルコト

(ロ) 海岸局又ハ船舶中繼局ヘ送信シタルトキハ當該原書餘白ニ「送信先何局」ト記スルコト  
此場合其料金カ他ノ海岸局ヲ經由スルモノヨリモ高額トナルトキハ「何海岸局ヘ通信不能」

ト併記シ其ノ事由ヲ簡記スルヲ要ス(規程第二〇條)

(ハ) 自局中繼ノ電報ヲ送信スルトキハ何(自局名若シテ他中繼船舶アルトキハ其ノ局名ノ下ニ自局名)中繼ノ局内心得ヲ添附スルコト(規程第一九條)

三、送受信確證ノ手續

電報送受ニ際シテモ空電等ノ妨害ニ依リ符號不明ノ場合少ナカラサルヲ以テ相互ニ送受ヲ確證スルタメ必要ノ手續ヲ取ラサルヘカラス之ニ關スル規定左ノ如シ



1、普通ノ場合

- (イ) 受信證ヲ送ルトキハ必ス前ニ相手局名符號ヲ送り後ニ自局名符號ヲ送ルコト(規程二三條)
- (ロ) 終信符號(---)ヲ送ルトキハ必ス次ニ自局名符號ヲ送ルコト(規程第二四條)
- (ハ) 兩局間ノ通信完了シタルトキハ互ニ終了符號(---)及自局名符號ヲ交換スルコト(規程第二五條)

2、事故ノ場合

- (イ) 送信中對手局ヨリ符號不明瞭ノ故ヲ以テ反覆送信ヲ要求サレタルトキハ送信局ハ之ニ應ジ三回反覆送信スルモノトス此ノ場合尙受信局ニ於テ受信シ得サルトキハ受信中ノ電報ハ之ノ取消ヲ要ス(規程第二六條第一項)
- (ロ) 送信局ニ於テ一旦電報送了シタルモ受信證ヲ得ル能ハサリシトキハ一般呼出ノ方則ニ依リ三回反覆呼出ヲ爲シ尙無答ナリシトキハ該電報ハ一時之ヲ未送ノモノトシテ處理シ原書餘白ニ「受信證未了再送ヲ要ス」ト記入シ送信時刻ヲ附記スルモノトス(規程第二六條第二項) 若シ其ノ後通信ノ機會ヲ得タルトキ該電報ヲ送信スルトキハ「タヌ」ヲ添附シ重複ナカラシムルヲ要ス(規程第二六條第三項)
- (ハ) 一旦受信シタル電報中不明ノ點アリ且ツ校正ノ見込ナキ場合ト雖其ノ文意ヲ解シ配達交附上支障ナシト認メ得ルトキハ「ムメ」ノ局内心得ヲ添附スルモノトス著信局所ニ於テ「ムメ」添附ノ電報ヲ受ケタルトキハ送達紙記事欄ニ「無線電信ノ送受上何々不明ナルモ其儘配達ス」ト記載處理スルヲ要ス(規程第二七條)

四、通信特殊方式

- 1、和文百字歐文四十語以上無線電報ヲ送信スルニハ和文ハ凡ソ五十字歐文ハ凡ソ二十語毎ニ送信ヲ中止シテ間標ヲ送ルコト  
此場合受信局ニ於テ受信明確ナルトキハ可送ノ符號(---)ヲ然ラサルトキハ受信シタル最後ノ語辭ニ同標ヲ附シテ送ルコト(規程第一八條)
- 2、同文電報ヲ送信スルトキハ第二以下ノ受信人居所氏名等ヲ一括送信シタル後ニ本文ヲ送信スルコト(規程第二六ノ二外)
- 3、船舶局ヨリ海岸局ヘ送信スルトキハ其受信時刻(船舶時)送信海岸局使用ノ標準時ニ換算シタル時刻ヲ以テスルコト(規程第一六條ノ二)

第六節 海岸局ノ轉送

陸上局所發無線電報ハ發信人ノ表示シタル海岸局ニ於テ傳送シ得サルトキハ一般手續ニ依リ保管處理スルヲ原則トスルモ其事由カ

- 1、既ニ確實通信距離外ニ去リタルトキ
  - 2、一旦送信シタルモ受信證ヲ受クルコトヲ得サリシトキ
- 等ノ場合ニシテ該船舶ノ寄港前他ノ海岸局ヲ經由シ又ハ無線電信ニ依ラサルモ陸上局所ヨリ送達シ得ヘシト認ムルトキハ之ヲ轉送スルモノトス(規則第四條第二項)
- 此場合轉送ニ依リ料金は不足ヲ生スルトキハ其不足額ハ受信人ヨリ之ヲ追徴ス(規則第十一條ノ三)若シ同文ナルトキハ追徴スヘキ料金額ヲ各通ニ平分シタル料金額ニ依ル(電報規則四十六條錢位未滿ハ切捨テ)



同上取扱方

前項ノ轉送ハ著局改正ノ例ニ準シ場合ニ應シ相當局内心得ヲ添附スルヲ要ス(規程第二八條)

- 1、他ノ海岸局經由轉送ノ場合
- 2、陸上局所へ轉送ノ場合
- 3、轉送ノ爲料金不足足ヲ生スルモノニハ1ノMMノ外ニ(レコ)ヲ要ス

第六章 海岸局相互間無線電信連絡

規則第十六條ノ二陸上相互間ニ發受スル電報ヲ無線電信ニ依リ取扱フ場合ハ別ニ告示スヘキコトヲ規定シ原則トシテ陸上相互間發受電報ハ無線電信ノ取扱ヲ爲サ、ル主旨ヲ明ニセルモノトス

而シテ前段ノ取扱ヲ爲ス場合ニ於テハ無線電報規則第九條乃至第十條ノ三及第十六條但書ヲ除ク外同規則各條ノ規定ヲ準用シ只其料金ニ關シテハ逓信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ之ヲ特定スルコトアルヘキヲ規定シ之レカ特定料金及取扱方ヲ告示ニ讓レリ

〔參考〕

陸上相互間發受電報ハ元來無線電報ニアラサルモ本條ニ依リ無線電報規則準用ノ結果「ナイ」ノ指定ヲ要スルモノトス

以上陸上發受電報ニ對シ無線電報ノ取扱ヲ爲ス場合ノ對外的規定ナルモ別ニ對内的ニ於テハ

一、陸上電信局所海岸局間

二、海岸局相互間

線路障礙ノ爲有線連絡杜絶セル場合ニ於テハ

一、無線電報

二、障礙局報

ニ限リ適當海岸局眉互間無線電信ヲ以テ連絡送受スルヲ得ルモノトス(規程第三八條ノ五)

海岸局ニ於テ

一、回線ノ障礙

二、他ノ海岸局ノ事故

等ニ關スル通知ヲ受ケタル場合ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ旨ヲ必要ノ船舶局へ通知スルヲ要ス

海岸局カ船舶局ヨリ無線電報受信ニ際ス該電報ノ經過スヘキ回線障礙ノ通知ヲ受ケ居ル場合ニ於テモ亦之ニ準シ相當通知ヲ爲スヘキモノトス(規程第三八條ノ二)



### 船舶局執務上注意事項

(明治四十一年五月二日通牒)  
(通業乙第三九九九條)

- 一、事務日誌ヲ設備シ且ツ其ノ寫ヲ調製シテ之ヲ通信局ニ送附スルコト
- 一、無線電報通報方ニ關シ公衆ノ注意スヘキ事項ヲ船内適當ノ場所ニ揭示シ之ヲ周知セシムル方法ヲ講ズルコト
- 一、執務中常ニ關係船員ト連絡ヲ保チテ船舶ノ位置ニ注意シ通信距離内ニ入り又ハ之ヲ去ルヘキ豫定日時ニ成ルヘク速ニ豫測シテ之ヲ公示シ其ノ距離内ニ入ルニ先チ受付事務ヲ完了スルノ途ヲ講スルコト
- 一、事務室ノ位置カ電報受付等ノ應接上不便ナルトキハ事務長室其ノ他適當ノ場所ニ於テ處理スルコト
- 一、電報ノ受付ハ成ルヘク事務長又ハ豫メ事務長ノ指示シタル船員ヲシテ媒介セシメ其ノ受授ニ關シテハ適當ノ配達簿ニ依リ配達上萬一ノ遺漏ナキヲ期スルコト又受信人乗船ノ有無明瞭ナラサル場合ニ於テモ直ニ旅客名簿又ハ船員名簿ニ就テ調査ヲ試ミ得ヘキ様豫メ準備シ置クコト(明治四十五年二月一、一通業第六八三號ヲ以テ改正)
- 一、前各項其他事務上ノ必要ニ依リ船員ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ船長事務長又ハ豫メ船長若ハ事務長ノ指示シタル船員ニ對シ直ニ交渉ヲ遂ケ其ノ處理ヲ遲滯セサルコト
- 一、通信距離ニ關シテハ規定上明ニ制限アル處ナレトモ此制限ハ實際ノ狀況ニ依リ伸縮スルモノナル

- 一、ヲ以テ實際上通信ヲ爲シ得ル限リハ確實通信距離外ニ於テ通信スルヲ妨ケサルコト
- 一、通信距離内ニ入ルニ先チテハ何時ニテモ直チニ通信ヲ開始シ得ル様豫メ準備ヲ爲シ又其ノ距離内ニ在ル間ハ一旦通信ヲ終リタル後ト雖何時ニテモ應答シ得ル様注意スルハ勿論其ノ他ノ場合ト雖時々通信機ノ感働ニ注意シ不時ノ喚呼ニ備フルコト
- 一、無線電信ノ電波ハ通信距離ニ於ケル各局ニ影響ヲ及ホシ其ノ關係スル處重大ナルヲ以テ電報送受上又ハ試験上必要ナル場合ノ外ハ濫リニ通信機ヲ使用スヘカラサルコト
- 一、船航行中異常ノ事故ノ爲船長ヨリ不時ノ通信ヲ求メラレタル場合通信距離ノ内外不明ナルトキハ探呼符號ヲ用ヒ又若シ其ノ事故カ危急ニ迫ルモノナルトキハ危急符號ヲ用ヒテ喚呼スルコト
- 一、前項ノ場合出來得ヘクシハ同時ニ其ノ事故ヲ電報ニテ本官ニ報告シ若シ海上ニテ發達シ得サリシトキハ内地ニ於ケル最初到着ノ場所ヨリ發送スルコト
- 一、電報原書ハ未送ト既送トニ區別整理シ各適當ノ方法ニ依リ最モ鄭重ニ保管シ置キ相當期日ニ於テ其ノ差立ヲ遺漏セサルコト
- 一、通信機其ノ他通信上必要ナル設備ニ關シテハ常ニ障礙ノ有無ヲ檢シ且ツ通信中ニ於ケル不時ノ障礙ニ對シ相當ノ準備ヲ爲シ置クコト
- 一、事務用物品其ノ他事務上必要ナル器具用紙類ハ次回交付ヲ受クルマテニ要スヘキ品目數量ヲ準備シテ航行中欠乏ノ惧レナキヲ期シ且ツ其ノ保管出納等ハ常ニ整頓シテ明瞭ナラシムルコト
- 一、公衆ニ應接交渉ヲ爲ストキハ丁寧懇切ヲ旨トシ殊ニ外國人ニ對シテハ意志疎通ヲ欠キ感情ヲ損フ惧レナキ様一層注意スルコト
- 一、船舶ノ紀律ハ船員ニ準シテ之ヲ遵守シ且ツ平素服裝姿ヲ正シクスルハ勿論常ニ吏員ノ體面ヲ重ンスルコト



- 一、乗船又ハ下船ノ際ハ必ス其ノ旨ヲ船長ニ通告シ且ツ上陸ニ關シ心得方ノ指示ヲ受ケタルトキハ必ス之ヲ服膺シ尙稅關ノ規定ニ違反セサル様注意スルコト
- 二、削除(明治四十一、九、三)通業乙第六八七五號
- 一、米國方面ヨリ復航ノ際ハ豫メ關係船員ヨリ該船ノ横濱入港豫定日時、搭載郵便行囊總個數並ニ横濱局及東京局宛各箇數ノ通知ヲ受ケ置キ銚子無線電信局ノ通信距離内ニ入りタルトキハ左ノ文例ニ依リ横濱局ヘ通報スルコト但シ船舶内郵便局設置セラレタル場合ニ於テハ當該郵便局長之カ通報ヲ爲スヘキコト(明治四一、八、一)通業乙第五七七〇號追加四二、二六通業乙第一三二四號四三、一、三四通業第二六〇號改正)

文例

- 四五〇(總個數四百五十)ヨ一ニ二五(横濱局宛數百二十五)ト九二(東京局宛箇數九十二)ニヒセ一
- 一(著港二日午前十一時 午後ナラハ「ゴ、レ」トスルコト)
- 一、無線電信ニ依ル通信ノ遅延又ハ不能等ノ場合自局及對手局ニ於ケル處理ノ狀況ヲ對照シ其ノ顛末ヲ調査スルノ必要アリト認メタルトキハ左記ニ依リ處理スルコト(明治四一、一〇、二六通業乙第八四九二號追加)
- (一)内國郵便ニ依リ直ニ自局ニ於ケル處理ノ狀況ヲ對手局ニ詳報シ其ノ旨日誌ニ記入シ置クコト
- (二)前號ノ通知ヲ受ケタルトキハ同一ノ例ニ依リ回報シ關係書類ヲ取纏メ日誌ニ記入シ置クコト
- 一、當該船舶ノ郵便局長トハ出來得ル限り相互ニ局務ヲ幫助シ斯業上遺憾ナキヲ期スルコト(明治四三、一、二四通業第二六〇號追加)
- 一、通信距離ノ著シク増加シタルト共ニ他ノ必要通信ヲ妨害スルノ範圍甚シク擴大シ影響スル所尠少ナラサルニ付通信ノ濫用ハ嚴重ニ禁止スルコト(同上)

- 一、遠距離通信ヲ試ムル場合ニ於テ強ヒテ通信距離ノ増大ヲ計ラムカ爲強度ノ電力ヲ使用シ之カ爲機械ヲ毀損スル等通信上ニ支障ヲ醸スノ惧ナキヲ期スルコト(同上)
- 無線電信局ニ於テハ不測ノ危急通信上ニ備フル爲人員配置其ノ他ノ事情ノ許ス限り何時タリトモ他局ノ喚呼ニ應答シ得ルニ努ムヘキハ勿論ニシテ最返必要ノ區間ニ對シ配置人員ノ増加ヲ見タルカ如キ縱令外國法規ノ關聯スル處アルニ因ルモ其ノ趣旨タル實ニ之ニ外ナラス然ルニ實際上通信ノ中絶スルヲ口實トシ各員同時ニ休養スルカ如キコトアラシカ爲ニ緊急ヲ要スル通信ニ關シ時機ヲ過クルカ如キ失態ヲ醸ス等ノ虞ナキヲ保セス事業上輕視シ難キ次第ニ付自今堅ク其ノ趣旨ヲ體シ二名配置ノ區間ニ於テハ相互ニ交代ノ上晝夜間斷ナク執務スル様特ニ留意アリタシ(通信局長ヨリ船舶無線電信局長ヘ通牒大正元、一一、一四通第二五七六號)



◇無線智識の源泉◇

〔本社刊行圖書及製品目録〕

- ◇大正十二年日本無線電信年鑑  
定價金 十二圓(送料二十七錢)
- ◇無線電信技士試験問題集第一輯  
定價金 一圓八十錢(送料四錢)
- ◇無線電信技士試験問題集第二輯  
定價金 三圓廿錢(送料四錢)
- ◇英文國際無線電信條約並ニ業務規則  
定價金 五圓(送料四錢)
- ◇無線電信接續圖(コンネクション)  
定價金 四十五錢(送料二錢)
- ◇日本無線電信法規集(近刊)  
定價金 一圓五十錢(送料四錢)
- ◇世界無線電信所所在地圖  
定價金 二圓(送料四錢)
- ◇月刊無線タイムス(毎月十五日發行)  
定價金 二圓五十錢(送料八錢)
- ◇フザ―送受信器  
A 號 (エボナイト盤附特製實驗用)  
定價金 拾貳圓  
B 號 (並製練習用)  
定價金 七圓五十錢(送料各十八錢)

發賣所

東京市芝區櫻田備前町五番地  
合資會社 無線

通信社

電話銀座二九三六番  
振替東京一九〇〇八番



大正三年三月五日印刷  
同 年三月十五日發行

東京市芝區櫻田備前町五番地  
發行兼編輯者 加 島 倫



發行所 東京市芝區櫻田備前町五番地  
無線技士通信學校



508  
19



終